

Salesforce.Salesforce-AI-Specialist.v2026-04-18.q91

試験コード：	Salesforce-AI-Specialist
試験名称：	Salesforce Certified AI Specialist Exam
認証ベンダー：	Salesforce
無料問題の数：	91
バージョン：	v2026-04-18
ページの閲覧量：	107
問題集の閲覧量：	1095

<https://www.jpnsiken.com/shiken/Salesforce.Salesforce-AI-Specialist.v2026-04-18.q91.html>

質問: 1

サービスエージェントは、旅行情報を格納するカスタムオブジェクトを確認しています。最近、気象警報を受け取ったため、この旅程に関連する顧客のフライトをキャンセルする必要があります。サービスエージェントは、顧客のフライトのキャンセルと再予約に関するナレッジ記事を確認する必要があります。

エージェントがこれを実現できるように支援する Einstein Copilot の機能はどれですか？

- A. 利用可能なアクションに基づいてタスクを実行し、アクセス可能なナレッジ記事の情報を使用して質問に答えます。
- B. 外部データへの呼び出しを行ってナレッジ記事を作成するフローを呼び出します。
- C. エージェントが入力したプロンプトに基づいてナレッジ記事を生成し、フライトをキャンセルするための手順を作成します。

正解: ([正解を表示します](#))

このシナリオにおいて、エージェントにとって最も役立つ Einstein Copilot の機能は、利用可能なアクションに基づいてタスクを実行し、ナレッジ記事のデータを使用して質問に答える機能です。Einstein Copilot は、フライトのキャンセルと再予約に関する関連ナレッジ記事を提供することでサービスエージェントを支援し、エージェントがワークフロー内で適切な手順に直接アクセスできるようにします。

この機能は、エージェントの既存のコンテキスト (旅行日程) を活用し、関連するナレッジ記事から実用的な洞察や次のステップを提供することで、エージェントが顧客のニーズを迅速に解決できるようにします。

他のオプションは間違っています:

B は、既存のナレッジ記事を取得するタスクとは無関係な、ナレッジ記事を作成するためのフローの呼び出しを指します。

C はナレッジ記事の生成に重点を置いていますが、エージェントが既存の手順に関するガイダンスを必要とするこの状況では、これは直ちに必要なことではありません。

参照：

Einstein Copilot に関する Salesforce ドキュメント

Einstein for Service の Trailhead モジュール

質問: 2

Universal Containers は、Call Explorer を使用して、営業チームが記録した会議から迅速に洞察を得ることに関心を持っています。

この機能を有効にする前に AI スペシャリストが知っておくべきことは何ですか？

- A. Call Explorer は Salesforce Knowledge とは独立して動作し、事前の設定は必要ありません。
- B. 構成する前に、カスタム コール エクスプローラー アクションを構築する必要があります。
- C. 通話エクスプローラーでは、Einstein 会話インサイト権限セットを有効にする必要があります。

正解: ([正解を表示します](#))

通話エクスプローラーを有効にする前に、Salesforce AI スペシャリストは、Einstein Conversation Insights 権限セットがユーザーに割り当てられていることを確認する必要があります (オプション C)。通話エクスプローラーは、Einstein Conversation Insights (ECI) の機能で、会議の録画を分析して傾向、キーワード、実用的なインサイトを明らかにします。

重要な考慮事項:

- * 権限セットの要件:
- * ユーザー (管理者を含む) が通話エクスプローラーにアクセスして使用するには、Einstein 会話インサイトの権限セットが必要です。この権限がない場合、この機能は利用できません。
- * 権限セットは、通話の文字起こし、分析、ダッシュボードの表示などの ECI ツールへのアクセスを許可します。
- * 他の選択肢が間違っている理由:
- * A. Salesforce Knowledge からの独立性 : Call Explorer は Salesforce Knowledge に依存しませんが、これはセットアップの前提条件とは無関係です。重要な依存関係は権限セットであり、Knowledge の設定ではありません。
- * B. カスタムアクション : Call Explorer では、設定前にカスタムアクションを作成する必要はありません。権限とデータソース (例: 通話録音) を設定するだけですぐに使える、あらかじめ構築された分析ツールです。

参考文献:

- * Salesforce Einstein Conversation Insights ガイド: Call Explorer にアクセスするには、Einstein Conversation Insights 権限セットが必要であることが明示的に記載されています。
- * Trailhead モジュール: Einstein Conversation Insights の基礎」では、通話分析を有効にするための権限の前提条件について説明します。
- * Salesforce ヘルプドキュメント: コール エクスプローラー機能が ECI 権限によって管理されていることを確認します。

質問: 3

営業マネージャーは、日々の業務を効率化するためにエージェントアシスタントを使用しています。エージェントに、現在開いている商談のリストを見せてほしいと依頼しました。Agentforce の大規模言語モデル (LLM) は、営業マネージャーにオープンな商談のリストを表示するアクションをどのように識別して実行するのでしょうか？

A. LLMはユーザーのリクエストを解釈し、apcMopneteのトピックとアクションを識別してプランを生成し、アクションを実行してオープンな機会を取得して表示します。

B. LLM は静的なルールセットを使用して、ユーザーの要求を事前定義されたトピックおよびアクションと一致させ、動的な解釈と計画の必要性を回避します。

C. ダイアログ パターンを使用します。LLM は、ユーザー クエリを利用可能なトピック、アクション、および手順に一致させ、開いている機会の一覧を取得するなど、各アクションの手順を実行します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

AgentforceのLLMは、自然言語リクエスト（例 :「オープンな商談を表示」）を動的に解釈し、プランナーサービスを使用して実行計画を生成し、アクション（例Salesforceレコードのクエリ）を介してデータを取得します。これは、コンテキストへの適応性に欠ける静的ルール **B)** や固定的なダイアログパターン **C)** とは対照的です。Salesforceのドキュメントでは、セキュリティとビジネスロジックを遵守しながら、インテントを実行可能なステップに変換するプランナーの役割について詳しく説明されています。

質問: 4

AI スペシャリストは、外部サービス呼び出し (REST API コールアウト) の応答からのデータをプロンプト テンプレートに含めることを望んでいます。

AI スペシャリストはこの要件をどのように満たすべきでしょうか？

A. JSON を XML マージ フィールドに変換します。

B. 外部サービスレコードのマージフィールドを使用します。

C. プロンプト指示の追加「フロー要素」を使用します。

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

AIスペシャリストは、外部サービス呼び出し (REST APIコールアウト) のレスポンスデータをプロンプトテンプレートに取り込みたいと考えています。目標は、外部APIから取得した動的データをAI生成コンテンツに組み込むことです。

解決 :

- * 外部サービスレコードの差し込みフィールドを使用する

- * 外部サービス統合:

- * 定義: Salesforce の外部サービスを使用すると、カスタム コードなしで外部 REST API を Salesforce に統合できます。

- * 登録: 外部サービスは、API のスキーマとメソッドを定義して Salesforce に登録する必要があります。

- * 外部サービスレコードのマージフィールド:

- * 目的: マージ フィールドを使用して、外部サービス応答からのデータをプロンプト テンプレートに直接含めることができるようにします。

- * 機能性:

- * 動的データインクルード: プロンプト テンプレートが REST API コールアウトから返されたデータにアクセスして使用できるようにします。

- * マージ フィールド構文: プロンプト テンプレートでマージ フィールドを使用して、API 応答から特定のデータ ポイントを参照します。

実装手順:

- * 外部サービスを登録します:

- * 外部サービスを使用して、REST API を Salesforce に登録します。

- * メソッドやデータ構造を含む API のスキーマを定義します。

- * 名前付き認証情報を作成します。

- * 外部 API の認証とエンドポイントの詳細を構成します。

- * フロー内で外部サービスを使用する:

- * 外部サービスを呼び出して応答をキャプチャするフローを構築します。

- * フローがプロンプト テンプレートで使用するために必要なデータを出力することを確認します。

- * プロンプトテンプレートを設定します。

- * プロンプト テンプレートの外部サービス レコード差し込みフィールドを使用して、フローの出力からデータを参照します。

- * 構文例: `{{flowOutputVariable.fieldName}}`

他の選択肢があまり適していない理由:

- * オプション A (JSON を XML マージ フィールドに変換する):

- * 無関係: JSON を XML マージ フィールドに変換することは不要であり、プロセスが複雑になります。

- * サポートされていない方法: Salesforce プロンプト テンプレートは、JSON 変換からの XML マージ フィールドの直接の組み込みをサポートしていません。

- * オプション C (「プロンプト指示の追加」フロー要素を使用する):

- * プロンプト指示を追加する目的:

- * フロー内のプロンプトに指示を追加できますが、外部データを含めることはできません。

- * 制限: プロンプト テンプレートに外部サービス応答を組み込むのに直接役立ちません。

参考文献:

- * Salesforce AI スペシャリストドキュメント - プロンプトテンプレートと外部サービスの統合:

- * プロンプト テンプレートで外部サービスとマージ フィールドを使用する方法について説明します。

- * Salesforce ヘルプ - 外部データでのマージフィールドの使用:

- * マージ フィールドを使用してテンプレートで外部データを参照するためのガイダンスを提供します。

- * Salesforce Trailhead - 外部サービスとフロー:

* 外部サービスとフローを使用した外部 API の統合に関する実践的な理解を提供します。

結論：

外部サービス レコードのマージ フィールドを使用することで、AI スペシャリストは外部 REST API 応答からのデータをプロンプト テンプレートに効果的に組み込むことができ、AI によって生成されたコンテンツが最新かつ関連性の高い外部データで強化されることが保証されます。

質問: 5

Einstein Copilot アクションの実行における大規模言語モデル (LLM) の役割は何ですか？

- A. 類似のリクエストを検索し、実行する必要があるアクションを提供します
- B. 最も一致するアクションと正しい実行順序を特定する
- C. ユーザーのアクセスを決定し、実行するアクションを優先度順に並べ替えます

正解: B ([コメントを发表する](#))

Einstein Copilot における大規模言語モデル (LLM) の役割は、ユーザー入力を分析し、実行すべき最適なアクションを特定することです。LLM は自然言語理解を用いてユーザーのリクエストを分解し、実行すべきアクションの正しい順序を決定します。

これにより、LLMは実行されるタスクとアクションがコンテキストに適切であり、適切な順序で実行されることを保証します。このプロセスにより、ユーザーのリクエストを事前定義されたSalesforceアクションまたはフローにマッチングさせることで、シームレスでAIを活用したエクスペリエンスがユーザーに提供されます。

その他のオプションは、次の理由により正しくありません。

A は同様のリクエストを見つけることについて言及していますが、この文脈ではそれは LLM の主な役割ではありません。

C は、アクセスと優先度による並べ替えに重点を置っていますが、これは LLM よりもセキュリティ モデルとガバナンスによって処理されます。

参照：

Salesforce Einstein の Einstein Copilot アクションに関するドキュメント

大規模言語モデルに関する Salesforce AI ドキュメント

質問: 6

サービスエージェントは、旅行情報を格納するカスタムオブジェクトを確認しています。最近、気象警報を受け取ったため、この旅程に関連する顧客のフライトをキャンセルする必要があります。サービスエージェントは、顧客のフライトのキャンセルと再予約に関するナレッジ記事を確認する必要があります。

エージェントがこれを実現できるように支援する Einstein Copilot の機能はどれですか？

- A. 利用可能なアクションに基づいてタスクを実行し、アクセス可能なナレッジ記事の情報をを使用して質問に答えます。
- B. 外部データへの呼び出しを行ってナレッジ記事を作成するフローを呼び出します。
- C. エージェントが入力したプロンプトに基づいてナレッジ記事を生成し、フライトをキャンセルするための手順を作成します。

正解: ([正解を表示します](#))

このシナリオにおいて、エージェントにとって最も役立つEinstein Copilotの機能は、利用可能なアクションに基づいてタスクを実行し、ナレッジ記事のデータを使用して質問に答える機能です。Einstein Copilotは、フライトのキャンセルと再予約に関する関連ナレッジ記事を提供することでサービスエージェントを支援し、エージェントがワークフロー内で適切な手順に直接アクセスできるようにします。

この機能は、エージェントの既存のコンテキスト (旅行日程) を活用し、関連するナレッジ記事から実用的な洞察や次のステップを提供することで、エージェントが顧客のニーズを迅速に解決できるようにします。

他のオプションは間違っています:

- * 既存のナレッジ記事を取得するタスクとは無関係な、ナレッジ記事を作成するためのフローの呼び出しを指します。

- * ナレッジ記事の生成に重点を置っていますが、エージェントが既存の手順に関するガイダンスを必要とするこの状況では、これは直ちに必要なことはありません。

参考文献:

- * Einstein Copilot に関する Salesforce ドキュメント

- * Trailhead モジュール on Einstein for Service

質問: 7

Universal Containers (UC) では、顧客チャットへの返信におけるエージェントの生産性を向上させる必要があります。

どの生成 AI 機能が UC がこの課題に対処するのに役立つでしょうか?

A. ケースサマリー

B. サービス応答

C. ケースのエスカレーション

正解: B ([コメントを发表する](#))

- * サービス返信 :この生成AI機能は、カスタマーサービスエージェント向けに、正確で文脈に沿った効率的な返信を自動化・支援します。過去のやり取り、ケースデータ、会話の文脈に基づいて返信案を作成し、生産性の向上と応答時間の短縮を実現します。

- * ケース概要: ケース情報を要約しますが、顧客チャットへの返信に直接役立つものではありません。

- * ケースのエスカレーション: ケースを上位レベルのサポート チームに移動することを指しますが、チャット応答の生産性を向上させる必要性には対応していません。

したがって、サービス返信は、チャットへの返信におけるエージェントの効率性の向上に直接つながるため、この要件に最適な機能です。

質問: 8

ユニバーサルコンテナーズは、大規模言語モデル (LLM) のプロンプトに現在の注文履行状況を組み込むことを検討しています。注文状況は外部のエンタープライズリソースプランニング (ERP) システムに保存されています。

AI スペシャリストはどのデータグラウンディング手法を推奨すべきでしょうか？

A. 永続オブジェクトレコードのマージフィールド

B. 外部サービス差し込みフィールド

C. Apex マージフィールド

正解: ([正解を表示します](#))

* 要件のコンテキスト: Universal Containers は、外部 ERP システムから LLM プロンプトにリアルタイムの注文ステータス データを取得したいと考えています。

* LLMプロンプトにおけるデータグラウンディング :データグラウンディングにより、大規模言語モデルが最新かつ関連性の高い情報にアクセスできるようになります。Salesforce では、データがSalesforce外部にある場合、外部オブジェクト (Salesforce Connect経由) を使用することをお勧めします。

* 外部オブジェクトレコードのマージフィールドを使用する理由:

* 外部オブジェクトは標準オブジェクトやカスタム オブジェクトとよく似ていますが、外部システムのテーブルにマップされます。

* マージ フィールドでこれらの外部オブジェクトのフィールドを参照できるため、Salesforce にネイティブにデータを保存せずに、外部 ERP システムからリアルタイムにデータを取得できます。

* これは、カスタム Apex をコーディングしたり、プロンプトを直接埋め込むために外部サービスを構成する場合と比較して、より単純な 「ポイント アンド リファレンス」アプローチです。

* 外部サービス結合フィールドまたはApex結合フィールドを使用しない理由:

* 外部サービス差し込みフィールドは、通常、フローまたは外部サービス定義を活用します。実現可能ではありますが、自動化のために外部サービス (例: フロー) をオーケストレーションまたは呼び出すことが主な目的です。

これは、プロンプトマージで外部レコードデータをシームレスに参照するための標準的な方法ではありません。

* Apex 差し込み項目は、プロンプトの挿入を制御するカスタム Apex コードを必要とします。これは可能ではありますが、「ロードではなくクリック」という点で使い勝手が悪く、一般的なレコードデータを参照するためのデフォルトの方法ではありません。

* 参考文献と学習リソース:

* Salesforce ヘルプ & トレーニング#Salesforce Connect と外部オブジェクト

* Salesforce Trailhead# Salesforce Connect を使用した外部データの統合」

* Salesforce AI スペシャリスト学習リソース (外部オブジェクトを使用して LLM プロンプトをグラウンディングする方法に関するドキュメント)

質問: 9

Universal Containers は、Einstein Studio の AI を活用した予測を使用してデータを分析することで、販売業務の効率を向上することに関心を持っています。

このシナリオに適したユースケースはどれですか？

- A. プロモーション メッセージに対する顧客の感情を予測します。
- B. アカウントの顧客生涯価値を予測します。
- C. 新製品カタログから最も人気のある製品を予測します。

正解: ([正解を表示します](#))

営業業務の効率化を図るには、Einstein Studio が最適なソリューションです。データに基づいて成果を予測できる AI 搭載モデルの作成に最適です。最も価値の高いユースケースの一つは顧客生涯価値 (CLV) の予測です。これにより、営業チームは高価値顧客に集中し、より情報に基づいた意思決定を行うことができます。顧客生涯価値 (CLV) の予測は、顧客維持、クロスセル、長期エンゲージメントに関する戦略の最適化に役立ちます。

* オプション B は、顧客生涯価値の予測が販売における AI の確立された使用例であるため、正解です。

* オプション A (顧客の感情) は通常 NLP モデルを通じて処理されますが、オプション C (製品の人気) はマーケティング分析のユースケースになります。

参考文献:

* Salesforce Einstein Studio ユースケースの概要:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf>。

アインシュタインスタジオ概要

質問: 10

Universal Containers (UC) は、競合他社、製品、その他のカスタム フレーズに関する言及を、通話後に営業チームが自動的に確認できるようにしたいと考えています。

UC の営業チームを有効にするために、AI スペシャリストはどの機能を設定する必要がありますか？

- A. 通話要約
- B. エクスプローラーを呼び出す
- C. コールインサイト

正解: ([正解を表示します](#))

ユニバーサルコンテナ社の営業チームが通話後に競合他社、製品、カスタムフレーズに関する言及を自動的に把握できるようにするため、AI スペシャリストはコールインサイトを設定する必要があります。コールインサイトは、音声通話とビデオ通話でキーフレーズ、トピック、言及を分析し、会話の重要な側面に関するインサイトを提供します。この機能は、競合他社に関する言及、製品に関する議論、営業チームが指定したカスタムフレーズなど、重要な詳細情報を自動的に表示します。

* 通話概要では通話の概要が提供されますが、キーワードやトピックは特に強調表示されません。

* 通話エクスプローラーは通話データをナビゲートするためのツールですが、自動分析には重点を置いていません。

通話内容の分析と実用的な情報の抽出に関する詳細については、Salesforce の Call Insights ドキュメントを参照してください。

質問: 11

Northern Trail OutfittersのAIスペシャリストは、設定内の「データマスキングの設定」メニューで組織のデータマスキング設定を確認しました。すべてのフィールドを評価した結果、いくつかの追加フィールドが機密情報と判断され、EinsteinのTrust Layer内でマスキングされました。

マスクされたフィールドを変更する場合、AI スペシャリストはどのような手順を実行する必要がありますか？

- A. Einstein Trust Layer をオフにして、再度オンにします。
- B. データとマスクされたデータを利用するプロンプトから生成された応答が、生成された応答の品質に悪影響を及ぼさないことをテストして確認します。
- C. Einstein フィードバックをオンにして、AI 機能に悪影響があるかどうかをエンドユーザーが報告できるようにします。

正解: ([正解を表示します](#))

EinsteinのTrust Layerでマスクされたフィールドを修正した後、次の重要なステップは、新たにマスクされたデータを使用してプロンプトによって生成された応答が依然として品質基準を満たしているかどうかをテストし、確認することです。これにより、機密情報のマスクがAI生成コンテンツの有用性や正確性に悪影響を与えないことが保証されます。徹底的なテストを行うことで、マスクによってプロンプトのパフォーマンスに生じる可能性のある問題を特定し、必要に応じて調整を行うことができます。

* オプション B は正解です。AI の応答に対するマスキングの効果をテストすることは、AI が期待どおりに機能し続けることを保証するための重要なステップです。

* マスクされたフィールドを変更した後は、オプション A (Einstein Trust Layer のオン/オフ) は不要です。

* オプション C (Einstein フィードバックをオンにする) ではユーザー フィードバックが可能になりますが、フィールド マスキングの変更に続く直接的なステップではありません。

参考文献:

* Salesforce Einstein Trust Layer の概要:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.アインシュタイン信頼レイヤー.htm>

質問: 12

セキュア データ取得では、承認されたユーザーのみが動的グラウンディングに必要な Salesforce データにアクセスできることをどのように保証しますか？

- A. 実行「ユーザー権限に基づいて Salesforce データを取得します。
- B. プロンプトを実行するユーザーの権限に基づいて Salesforce データを取得します。
- C. プロンプト テンプレートのオブジェクト権限に基づいて Salesforce データを取得します。

正解: ([正解を表示します](#))

セキュアデータ取得は、プロンプトを実行するユーザーの権限に基づいてデータアクセスを動的にグラウンディングすることで、Salesforceのセキュリティモデルを強化します。これにより、CRUD（作成、読み取り、更新、削除）およびFLS（項目レベルセキュリティ）設定への準拠が確保され、機密データへの不正アクセスを防止します。例えば、ユーザーが特定のオブジェクトまたは項目にアクセスできない場合、AIモデルは動的グラウンディングのためにそのオブジェクトまたは項目を取得できません。

* 「実行」ユーザー権限 (A) は、ユーザー固有のセキュリティをバイパスし、コンプライアンス上のリスクをもたらします。

* プロンプトテンプレートの権限 (C) は Salesforce のセキュリティメカニズムではありません。アクセスは常にユーザーのプロファイルと共有設定に関連付けられています。

質問: 13

Universal Containers (UC) は、Einstein Generative AIを活用してアカウントサマリーを生成しています。UCは、Einstein Trust Layerの毒性スコアリングを用いてコンテンツの安全性レベルを評価することで、コンテンツの安全性と包括性を確保することを目指しています。

インシュタイン生成毒性スコアにおける安全カテゴリースコア 1は何を示していますか？

A. 安全

B. 中程度に安全

C. 安全ではありません

正解: A ([コメントを发表する](#))

Einstein Trust Layerでは、AIによって生成されたコンテンツの安全性を評価するために毒性スコアリングシステムが用いられており、特に、コンテンツが有害ではなく、包括的であり、ビジネスコンテキストに適切であることを確認するために用いられています。毒性スコアが1の場合、コンテンツは安全であると判断されます。

スコアリングシステムは0（安全でない）から1（安全までの範囲で評価され、中間値は安全性の度合いを示します。この場合、スコア1は生成されたコンテンツが完全に安全であり、Einstein Trust Layerによって設定された信頼性とコンプライアンスのガイドラインを満たしていることを意味します。

さらに詳しい情報については、AI 生成コンテンツの毒性スコアリングに関する Salesforce の公式 Einstein Trust Layer ドキュメントを参照してください。

質問: 14

Universal Containers (UC) は標準のService AI Groundingを使用しています。UC は、Service AI Groundingで使用するためのカスタムリッチテキストフィールドを作成しました。

標準サービス AI グラウンディングを使用する場合、UC が考慮すべきことは何ですか？

A. サービス AI グラウンディングは、ケース オブジェクトとナレッジ オブジェクトでのみ機能します。

B. サービス AI グラウンディングは、文字列およびテキスト領域タイプのフィールドのみをサポートします。

C. サービス AI 接地可視性はシステム モードで機能します。

正解: ([正解を表示します](#))

Service AI Groundingは、Salesforceオブジェクトからデータを取得し、AIが生成したレスポンスをグラウンディングします。重要な考慮事項：

* フィールドタイプ: 標準サービスの AI Grounding は、文字列フィールドとテキストエリアフィールドをサポートしています。カスタムリッチテキストフィールド（例 RichTextArea）はサポートされていないため、オプション B が正解です。

* オブジェクト: Service AI Grounding では主にケース オブジェクトとナレッジ オブジェクト（オプション A）が使用されますが、ここでの制限はオブジェクトではなくフィールドタイプです。

* 可視性: サービス AI Grounding は、上書きされない限り、ユーザーの権限と共有設定を尊重します（オプション C は誤りです）。

参考文献:

* Salesforce ヘルプ: サービス AI の基盤要件

* 「テキスト領域と文字列フィールド」のみのサポートを明示的に示します。

質問: 15

Universal Containers は、顧客サービス業務を強化するために、カスタム コパイロット アクションを実装しています。開発チームは、適切な構成と機能を確保するために、カスタム コパイロット アクションのコア コンポーネントを理解する必要があります。

カスタム コパイロット アクションのコア コンポーネントの 1 つを識別するために、開発チームはカスタム コパイロット アクション構成で何を確認する必要がありますか？

A. 指示

B. 出力タイプ

C. アクショントリガー

正解: ([正解を表示します](#))

ユニバーサルコンテナズは、カスタムコパイロットアクションを活用してカスタマーサービス業務を強化しています。開発チームは、カスタムコパイロットアクションの適切な設定と機能を実現するために、そのコアコンポーネントを理解する必要があります。そのコアコンポーネントの一つが出力タイプです。

* カスタムコパイロットアクションのコアコンポーネント:

* 説明書：

* アクションが達成すべき内容を定義します。

* AI アシスタントにアクションの実行方法をガイドします。

* 入力パラメータ:

- * アクションがタスクを実行するために必要なデータ入力。
- * ユーザーまたはシステムが提供する必要のあるパラメータを指定します。
- * 出力タイプ:
 - * 定義: アクション実行後に出力されるデータの種類を指定します。
 - * 重要度: Copilot およびその他のコンポーネントがアクションの結果の形式と構造を理解していることを確認します。
 - * 例: テキスト、JSON、レコード、その他のデータ構造。
- * アクションリファレンス:
 - * Apex クラスやフローなどの基礎となる実装を指します。
- * アクショントリガー:
 - * アクションを開始する条件またはイベント。
- * 出力タイプに焦点を当てる:
 - * 構成の関連性:
 - * 開発チームは、アクションの結果が Copilot によって適切に処理され表示されるように、出力タイプを正しく定義する必要があります。
 - * 出力タイプが正しくなかったり定義されていない場合、データの解釈が誤っていたり、機能に障害が発生したりする可能性があります。
 - 出力タイプがコアコンポーネントである理由:
 - * Copilotとの統合:
 - * Copilot は、アクションによって返されるデータの処理方法を理解するために出力タイプに依存します。
 - * データの一貫性:
 - * 出力の構造と形式を定義し、アクションと Copilot 間の一貫した通信を保証します。
 - * ユーザーエクスペリエンス:
 - * 適切な出力タイプにより、ユーザーは期待どおりの結果をわかりやすい形式で受け取ることができます。
- 他の選択肢があまり適していない理由:
 - * オプションA（指示）
 - * 手順はコア コンポーネントですが、質問では、コア コンポーネントの 1 つを特定するために構成で何を確認する必要があるかを尋ねています。
 - * この文脈では、適切な構成と機能性を確保するには、出力タイプを確認することがより重要です。
 - * オプションC (アクショントリガー):
 - * アクション トリガーは重要ですが、カスタム コパイロット アクションの構成内で必ずしもコア コンポーネントとは見なされません。
 - * トリガーは、アクション自体の構成ではなく、アクションがいつ開始されるかに関係することがよくあります。

参考文献:

- * Salesforce AI スペシャリストドキュメント - カスタム Copilot アクション:
- * カスタム コパイロット アクションのコンポーネントと構成について詳しく説明します。

- * Salesforce ヘルプ - カスタムアクションでの出力タイプの定義:
- * 出力タイプの重要性和その設定方法について説明します。
- * Salesforce Trailhead - カスタム Copilot アクションの構築:
- * 主要なコンポーネントに焦点を当て、カスタム Copilot アクションの作成と構成に関する実践的なアプローチを提供します。

質問: 16

管理者はFlexプロンプトの応答を確認したい

テンプレートを作成しましたが、プレビュー ボタンがグレー表示になっています。
その理由は何でしょうか？

- A. プロンプトに関連するレコードが選択されていません。
- B. プロンプトは保存されておらず、アクティブ化されていません。
- C. プロンプトにマージ フィールドが挿入されていません。

正解: A ([コメントを发表する](#))

Flex プロンプトテンプレートでプレビューボタンがグレー表示になっている場合、多くの場合、プロンプトに関連するレコードが選択されていないことが原因です。Flex プロンプトテンプレートは Salesforce レコードからデータを動的に取得するため、プロンプトにレコードが指定されていない場合は、テンプレートに基づいて生成されるコンテンツがないため、プレビューできません。

* オプション B (プロンプトを保存またはアクティブ化しない) では、必ずしもプレビューボタンがグレー表示されるわけではありませんが、適切な機能が妨げられる可能性があります。

* オプション C では、マージ フィールドが欠落しているため、出力に問題が発生しますが、プレビュー ボタンが直接グレー表示になることはありません。

実際の使用ケースでプロンプトがどのように機能するかをテストおよびプレビューするには、関連レコードが正しくリンクされていることを確認することが重要です。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス:Flex テンプレートのトラブルシューティングに関するドキュメントを参照してください。

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.flex_prompt_builder_troubleshoot.htm

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード:

JPNshiken」

質問: 17

ユニバーサル・コンテナーズの営業担当者は非常に多忙で、音声通話やビデオ通話で長時間の営業電話を掛けることがあり、重要な詳細を聞き逃してしまうことがあります。同社は、新しい生成AI機能の導入を始めたばかりです。

会話中に担当者が見逃した可能性のある詳細を把握できるようにするために、AI スペシャリストはどの Einstein Generative AI 機能を推奨すべきですか？

A. 通話概要

B. エクスプローラーを呼び出す

C. 売上概要

正解: [\(正解を表示します\)](#)

長い営業電話で重要な詳細を聞き逃す可能性のある営業担当者には、AI スペシャリストは通話概要機能を推奨する必要があります。通話概要は、Einstein Generative AI を使用して、通話中に話し合われた重要なポイントの簡潔な概要を自動的に生成し、営業担当者が聞き逃した可能性のある重要な情報をすばやく確認できるようにします。

* 通話エクスプローラーは通話データを手動で検索するために設計されていますが、要約は行いません。

* 販売概要は、通話固有のコンテンツではなく、全体的な販売活動を要約することに重点を置いています。

詳細については、AI 生成のサマリーによって営業担当者の生産性がどのように向上するかに関する Salesforce の通話サマリーのドキュメントを参照してください。

質問: 18

AI スペシャリストはエージェントのパフォーマンスのトラブルシューティングをしたいと考えています。

AI スペシャリストは、エージェントのエラー、誤ってトリガーされたアクション、不完全なプランなど、エージェントとのすべてのユーザー インタラクションにアクセスするにはどこにアクセスすればよいですか？

A. イベントログ

B. プランキャンバス

C. エージェント設定

正解: [A \(コメントを发表する\)](#)

Salesforceのイベントログは、エージェントエラー、トリガーされたアクション、未完了のプランなど、詳細なインタラクションデータを取得します。これらのログは、ユーザーとエージェント間のインタラクションを可視化し、パフォーマンスの問題のトラブルシューティングに役立ちます。Einstein Bot Analyticsのドキュメントでは、イベントログがボットの動作を監査し、アクションの設定ミスやプラン実行の失敗などの問題を診断するための主要な情報源として強調されています。

* プラン キャンバス (B) は、監査用ではなく、ワークフローの設計用です。

* エージェント設定 (C) は構成を制御しますが、インタラクション履歴は保存しません。

質問: 19

AIスペシャリストは、カスタムプロンプトテンプレートを使用して営業メールを作成する必要があります。そのためには、以下のデータが必要です。

機会製品顧客に近いイベントトーンと声の例

AI スペシャリストは関連アイテムをどのように入手すればよいですか？

- A. プロンプトによって開始されるフローを呼び出して、必要なデータを取得して準備します。
- B. 問題のレコードを入力として受け取る flex テンプレートを作成します。
- C. 標準の電子メール テンプレートを使用し、必要なデータ フィールドを手動で挿入します。

正解: ([正解を表示します](#))

商談商品、顧客に近いイベント、そしてトーンと声の例に基づいて営業メールを作成するために、AIスペシャリストはプロンプト開始フローを使用する必要があります。このフローは、Salesforce内の関連レコードから必要なデータを動的に取得し、文脈的に正確な情報に基づいてAI生成出力を生成できます。

* オプション B (フレックス テンプレート) では、Salesforce レコードから動的なデータを自動的に取得する機能は提供されません。

* オプション C (手動挿入) では、カスタム プロンプトに必要なデータの動的かつ自動的なグラウンディングは実行できません。

カスタム プロンプト テンプレートにデータを統合する方法の詳細については、フローおよびグラウンディングに関する Salesforce ドキュメントを参照してください。

質問: 20

Universal Containers (UC) は、顧客インサイトとインタラクションの向上を目指し、Einstein Generative AIを導入しています。UCは、レポート作成のために監査データとフィードバックデータにアクセスできるようにする必要があります。

この要件に関する考慮事項は何ですか？

- A. このデータを保存するには、Data Cloud をプロビジョニングする必要があります。
- B. このデータを保存するには、データを構成するカスタム オブジェクトが必要です。
- C. このデータを保存するには、Salesforce ビッグオブジェクトが必要です。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Generative AIを導入し、顧客インサイトとインタラクションの向上を目指す場合、大規模な監査データやフィードバックデータを保存・管理するためのData Cloudは重要な検討事項です。Salesforce Data Cloud (旧称Customer 360 Audiences)は、様々なソースからの膨大なデータセットを処理・統合するように設計されており、AIを活用したインサイトやレポート作成に必要なデータの保存に最適です。Data Cloudを導入することで、Universal Containers (UC)のような組織は顧客データへのリアルタイムアクセスを実現し、様々なシステムにわたる統合レポート作成のための中央リポジトリとして活用できるようになります。

* Einstein Generative AI によって生成された監査データとフィードバック データは、スケーラブルでアクセス可能な環境に保存する必要があります。Data Cloud はこの機能を提供し、レポート、分析、およびモデルのさらなる改善のためにデータに簡単にアクセスできるようにします。

* カスタム オブジェクトまたは Salesforce Big Object は、このような AI 主導のインタラクションに必要な規模や特定の種類のリアルタイムの統合データ処理向けには設計されていません。Big Object はアーカイブ データに適していますが、Data Cloud はより堅牢な処理、セグメンテーション、分析機能を保証します。

参考文献:

* Salesforce Data Cloud ドキュメント:<https://www.salesforce.com/products/data-cloud/overview/>

* Salesforce Einstein AI 概要:<https://www.salesforce.com/products/einstein/overview/>

質問: 21

Universal Containers では、営業担当者がプロンプト テンプレートのみを実行できるようにする必要があります。

この要件を満たすために AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか？

- A. プロンプトテンプレートのユーザー権限設定
- B. プロンプトテンプレートマネージャの権限セット
- C. テンプレート実行プロンプト権限セット

正解: ([正解を表示します](#))

プロンプトテンプレート実行権限セット :この権限セットは、ユーザーが既存のプロンプトテンプレートを実行できるようにするために特別に設計されています。これはまさに Universal Containersの営業担当者に必要な権限です。

プロンプト テンプレートのユーザー権限セット: この権限セットは、このシナリオでは必要ありませんが、テンプレートの作成や変更など、より広範なアクセスを許可する可能性があります。

プロンプト テンプレート マネージャー権限セット: この権限セットは、営業担当者が必要とする以上の、プロンプト テンプレートへのさらに広範な管理アクセス権を付与する可能性があります。

営業担当者に 「プロンプト実行テンプレート」権限セットを付与することで、意図しない変更やセキュリティ リスクにつながる可能性のある不要な権限を付与することなく、プロンプト テンプレートを使用するために必要なアクセス権を営業担当者に付与できます。

質問: 22

AI スペシャリストは、ユーザー関連リストを使用して新しいプロンプト テンプレートを構築したいと考えています。

AI スペシャリストは何を考慮すべきでしょうか？

- A. ユーザー関連リストには 「すべて表示」アクセス権が必要です。

- B.** ユーザー関連リストをレコード ページに含める必要があります。
- C.** プロンプト テンプレートでは、ユーザー関連リストはサポートされていません。

正解: ([正解を表示します](#))

Salesforceでは、グラウンディングプロンプトテンプレートに使用できるオブジェクトと関連リストに制限を設けています。これは、ユーザーデータに関するセキュリティとプライバシーへの懸念によるものと考えられます。

LLM にコンテキストを提供するためにユーザー関連リストを使用するのは直感的に思えるかもしれませんが、Salesforce では機密性の高いユーザー情報が誤って公開されたり、悪用されたりしないように、これを禁止しています。

したがって、AI スペシャリストは、サポートされている他の関連オブジェクトやフィールドを使用するなど、必要なユーザー情報をプロンプト テンプレートに組み込む別の方法を検討する必要があります。

質問: 23

Universal Containers のデータ サイエンス チームは、Amazon Web Services (AWS) 上で生成大規模言語モデル (LLM) をホストしています。

Salesforce プラットフォームで外部でホストされているモデルにアクセスするためにチームは何を使用すればよいですか？

- A.** モデルビルダー
- B.** アプリビルダー
- C.** コパイロットビルダー

正解: ([正解を表示します](#))

AWS でホストされている大規模言語モデル (LLM) など、外部でホストされているモデルにアクセスするには、Salesforce のモデルビルダーが適切なツールです。モデルビルダーを使用すると、外部 AI モデルを Salesforce プラットフォームに統合してデプロイできるため、Salesforce インフラストラクチャ外でホストされているモデルを活用しながら、プラットフォームのネイティブ AI 機能のメリットも享受できます。

オプション B の App Builder は、AI モデルの統合ではなく、主に Salesforce でアプリケーションを構築および構成するために使用されます。

オプション C の Copilot Builder は、外部 AI モデルを統合するのではなく、アシスタントのようなツールの構築に重点を置いています。

モデルビルダーを使用すると、外部システムやモデルとのシームレスな統合が可能になり、Salesforce ユーザーは外部 LLM を使用して AI 主導の洞察と自動化を生成できるようになります。

Salesforce AI スペシャリストリファレンス:

詳細については、モデルビルダーガイドをご覧ください:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.model_builder_external_models.htm

質問: 24

顧客チャットが開始されると、Salesforce のどの機能が、推奨されるナレッジ記事に基づいて AI による返信やメールの下書きを提供しますか？

- A. アインシュタインの返信の推奨事項
- B. アインシュタインサービス応答
- C. アインシュタインのグラウンディング

正解: **B (コメントを发表する)**

顧客とのチャットが開始されると、Einstein Service Replies は、推奨されるナレッジ記事に基づいて、AI による自動返信またはメールの下書きを提供します。この機能

は、Salesforce ナレッジベースの情報を活用して、顧客の問い合わせに関連する回答を生成するため、カスタマーサポートのインタラクションの効率と精度が向上します。

オプション B が正解です。Einstein Service Replies はナレッジ記事に基づいて AI 主導の応答を生成する役割を担っているためです。

オプション A (Einstein ReplyRecommendations) は、返信の推奨に重点を置いていますが、返信を生成することはありません。

オプション C (Einstein Grounding) は、応答をデータに基づいて根拠づけることを指しますが、返信の作成とは直接関係ありません。

参照：

Einstein サービス返信の概要: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_service_replies.htm

質問: 25

Salesforce 管理者は、顧客とのインタラクションデータを活用し、パーソナライズされたターゲットメールを作成したいと考えています。管理者は、大規模言語モデル (LLM) を活用してメールを作成し、異なる製品や顧客向けにテンプレートを再利用したいと考えています。

管理者はどのソリューションアプローチを活用すべきでしょうか？

- A. 営業メールの標準テンプレートを使用する
- B. フィールド生成プロンプトテンプレートタイプで作成
- C. 営業メールプロンプトテンプレートタイプを作成します。

正解: **(正解を表示します)**

テンプレートを再利用しながら LLM を使用してパーソナライズされた電子メールを生成するには:

* セールスメールプロンプトテンプレートタイプ (オプションC) LLMと構造化テンプレートを組み合わせることで、動的なメールコンテンツを生成するために特別に設計されています。管理者はプレースホルダー (顧客名 製品詳細など) を定義し、複数のシナリオでテンプレートを再利用できます。

* オプション A: 標準の電子メール テンプレートには、LLM 統合と動的なパーソナライゼーションが欠けています。

* オプション B: 「フィールド生成」は有効な Salesforce プロンプト テンプレート タイプではありません。

参考文献:

* Salesforce ヘルプ: 営業メールプロンプトテンプレート

* 営業メール プロンプト テンプレートを使用して、動的データと LLM を使用してターゲットを絞ったメールを生成する」方法について説明します。

質問: 26

Universal Containers は、顧客の関心に最も合致する製品に関するマーケティング メールを計画しています。

この電子メールを生成するために AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか？

A. 製品への関心をマッチングするための Apex またはフローを使用した標準的な電子メール マーケティング テンプレート

B. 興味と製品情報に基づいたカスタムセールスメールテンプレート

C. Einstein による標準メールの下書きと標準メールテンプレートの選択

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

顧客の関心に密接に一致する商品に関するメールを生成するには、AI スペシャリストは、顧客の関心と商品情報に基づいたカスタムセールスメールテンプレートの使用を推奨します。これにより、メールの内容は顧客の好みに基づいてパーソナライズされ、マーケティングメッセージの関連性が向上します。

グラウンディングを使用すると、生成 AI が顧客の関心や製品の一致に関連する正しいデータを確実に取得し、電子メールの効果を高めることができます。

詳細については、AI 生成コンテンツと電子メールのパーソナライゼーション戦略の基礎に関する Salesforce のドキュメントを参照してください。

質問: 27

AI スペシャリストは新しい組織を立ち上げており、ユーザーがプロンプトテンプレートを作成・実行できるようにする必要があります。しかし、これらのタスクに必要なロールが不明です。

AI スペシャリストは、プロンプト テンプレートを作成して実行する必要があるユーザーにどの権限セットを割り当てる必要がありますか？

A. テンプレートの作成にはテンプレート マネージャーを、テンプレートの実行にはデータクラウド管理者をプロンプトします。

B. テンプレートの作成にはテンプレート マネージャーを、テンプレートの実行にはテンプレート ユーザーにプロンプトを表示します。

C. テンプレートを作成するためのデータクラウド管理者とテンプレートを実行するためのプロンプトテンプレートユーザー

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

プロンプト テンプレートを効果的に管理および使用するには、次の 2 つの異なる権限セットが必要です。

* プロンプトテンプレート管理者 :この権限セットにより、ユーザーはプロンプトテンプレートを作成できます。テンプレートを定義するために必要なアクセス権が付与され、組織全体で共有・活用できます。

* プロンプトテンプレートユーザー: この権限セットは、テンプレートを実行する必要があるユーザー向けに設計されています。この権限セットにより、事前に設計されたプロンプトを操作し、これらのテンプレートに基づいて結果を生成することができます。

Data Cloud Admin 権限セットは、プロンプト テンプレートの作成や実行には直接関係しませんが、Data Cloud の管理に重点を置いています。

質問: 28

Universal Containers は、Einstein Studio の AI を活用した予測を使用してデータを分析することで、販売業務の効率を向上することに関心を持っています。

このシナリオに適したユースケースはどれですか？

A. プロモーション メッセージに対する顧客の感情を予測します。

B. アカウントの顧客生涯価値を予測します。

C. 新製品カタログから最も人気のある製品を予測します。

正解: ([正解を表示します](#))

営業業務の効率化を図るには、Einstein Studio が最適なソリューションです。データに基づいて成果を予測できる AI 搭載モデルの作成に最適です。最も価値の高いユースケースの一つは顧客生涯価値 (CLV) の予測です。これにより、営業チームは高価値顧客への注力を強化し、より情報に基づいた意思決定を行うことができます。顧客生涯価値 (CLV) の予測は、顧客維持、クロスセル、長期的なエンゲージメントに関する戦略の最適化に役立ちます。

顧客生涯価値の予測は販売における AI の確立された使用例であるため、オプション B が正しい選択です。

オプション A (顧客の感情) は通常 NLP モデルを通じて処理されますが、オプション C (製品の人気) はマーケティング分析のユースケースになります。

参照 :

Salesforce Einstein Studio ユースケースの概要: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_studio_overview

質問: 29

ユニバーサルコンテナ (UC) は、プロンプトビルダーを使用して新しいセールスメールプロンプトテンプレートを作成したいと考えています。

名前を付けて保存」機能。しかし、UCは、ハイパーパラメータが不足しているため、新しいテンプレートでは標準のセールスメールプロンプトとは異なる結果が生成されることを発見しました。

新しいプロンプト テンプレートが標準の Sales Email プロンプトに匹敵する結果を生成するようにするには、UC は何をする必要がありますか？

- A. モデル プレイグラウンドを使用して、指定されたパラメータでモデル構成を作成します。
- B. 新しいテンプレートにハイパーパラメータを手動で追加します。
- C. 変更せずに標準テンプレートの使用に戻します。

正解: ([正解を表示します](#))

Universal Containers が「名前を付けて保存」機能を使用して新しいセールスメールプロンプトテンプレートを作成する際、ハイパーパラメータが不足していると出力結果が異なる場合があります。新しいプロンプトが標準のセールスメールプロンプトと同等の結果を生成するには、AI スペシャリストが必要なハイパーパラメータを新しいテンプレートに手動で追加する必要があります。

* 温度、頻度ペナルティ、プレゼンスペナルティなどのハイパーパラメータは、AIの応答生成に直接影響します。これらのパラメータが標準テンプレートと一致していることを確認することで、同様の出力が得られます。

* オプション A (モデル プレイグラウンド) は、テンプレートを直接調整するのではなく、モデルの微調整に重点を置いているため、ここでは必要ありません。

* オプション C (標準テンプレートに戻す) では、プロンプト テンプレートのカスタマイズの問題は解決されません。

詳細については、カスタム テンプレートでのハイパーパラメータの設定に関する Prompt Builder のドキュメントを参照してください。

質問: 30

AI スペシャリストは、ユーザー関連リストを使用して新しいプロンプト テンプレートを構築したいと考えています。

AI スペシャリストは何を考慮すべきでしょうか？

- A. ユーザー関連リストには「すべて表示」アクセス権が必要です。
- B. ユーザー関連リストをレコード ページに含める必要があります。
- C. プロンプト テンプレートでは、ユーザー関連リストはサポートされていません。

正解: ([正解を表示します](#))

AI スペシャリストは、ユーザー関連リストを新しいプロンプトテンプレートの基盤にしたいと考えています。プロンプトテンプレートの基盤には、関連リストのデータを使用して、応答を生成する際に大規模言語モデル (LLM) にコンテキストや追加情報を提供することが含まれます。

重要な考慮事項:

* プロンプトテンプレートでサポートされていない関連リスト:

* 制限事項: ユーザー関連リストは、基盤構築の目的でプロンプト テンプレートではサポートされていません。

* 理由: Salesforce では、データのセキュリティと整合性を維持するため、プロンプトテンプレートで特定のオブジェクトと関連リストを使用することを制限しています。User オブジェクトには機密情報が含まれることが多く、厳格なアクセス制御の対象となります。

* 影響: プロンプト テンプレートでユーザー関連リストを使用しようとする、システムがサポートしていないため、期待どおりに動作しません。

オプションAとBが間違っている理由:

* オプション A (ユーザー関連リストにすべて表示アクセス権が必要です):

* 誤り: 「すべて表示」アクセス権があっても、プロンプト テンプレートではユーザー関連リストはサポートされません。

* セキュリティ上の懸念: ユーザー オブジェクトにすべての表示アクセス権を付与することは、重大なセキュリティ リスクとなるため、推奨される方法ではありません。

* オプション B (ユーザー関連リストをレコードページに含める必要があります):

* 誤り: レコード ページにユーザー関連リストを含めても、プロンプト テンプレートでの可用性には影響しません。

* 無関係: レコード ページに関連リストを配置しても、プロンプト テンプレートでシステムがそのリストにアクセスできる機能は変わりません。

参考文献:

* Salesforce AI スペシャリストドキュメント - プロンプトテンプレートの制限:

* プロンプト テンプレートでサポートされていないオブジェクトと関連リストの詳細を示します。

* Salesforce ヘルプ - プロンプトテンプレートでのデータアクセス:

* データ アクセスとセキュリティに関する考慮事項がプロンプト テンプレート内のオブジェクトの使用にどのように影響するかについて説明します。

* Salesforce Trailhead - プロンプトテンプレートの基礎を理解する:

* グラウンディングプロンプトテンプレートとそれに伴う制限についての洞察を提供します。

結論:

プロンプトテンプレートではユーザー関連リストがサポートされていないため、AI スペシャリストは代替アプローチを検討する必要があります。サポートされているオブジェクトまたは関連リストを使用するようにプロンプトテンプレートを再設計する

か、Salesforceのデータアクセスポリシーを遵守しながら必要なユーザー情報を組み込むための他の方法を検討する必要があるかもしれません。

質問: 31

AI スペシャリストは、Salesforceに保存されている顧客データを用いてパーソナライズされた営業メールを作成するための生成モデルの設定を任されています。AI スペシャリストは既にOpenAIプラットフォーム上で大規模言語モデル (LLM) を微調整しています。セキュリティとデータプライバシーは、クライアントにとって重要な懸念事項です。

AI スペシャリストはカスタム LLM を Salesforce にどのように統合すればよいですか?

A. カスタム LLM のアプリケーションを作成し、iFrame 経由で Sales Cloud に埋め込みます。

B. Einstein Studio モデルビルダーに微調整された LLM を追加します。

C. OpenAI でモデル エンドポイントを有効にし、モデルへの呼び出しを行って電子メールを生成します。

正解: ([正解を表示します](#))

セキュリティとデータのプライバシーは重要であるため、AI スペシャリストにとって最善のオプションは、微調整された LLM (大規模言語モデル) を Einstein Studio Model Builder に追加して Salesforce に統合することです。Einstein Studio を使用すると、組織は独自の AI モデル (BYOM) を持ち込むことができ、モデルが Salesforce 環境内で安全に管理され、データプライバシー標準に準拠していることが保証されます。

* オプション A (iFrame 経由の埋め込み) は安全性が低く、Salesforce のデータおよびセキュリティ モデルと深く統合されません。

* オプション C (OpenAI への呼び出し) では、機密性の高い Salesforce データが外部システムに送信されるため、データのプライバシーに関する懸念が生じます。

Einstein Studioは、データのプライバシーとコンプライアンスを維持しながら、カスタムAIモデルを統合するための最も安全でシームレスな方法を提供します。外部モデルの統合に関する詳細は、SalesforceのEinstein Studioドキュメントをご覧ください。

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 32

AIスペシャリストは、プロンプトテンプレートを設定する際に、作成したプロンプトテンプレートの結果をプレビューします。解決」と 応答」という2つの異なるテキスト出力が表示されます。

決議文ではどのような情報が提供されますか？

A. 信頼レイヤーに送信される完全なテキストを表示します。

B. サンプルレコードに基づいて LLM からの応答を表示します。

C. LLM に送信される前にマスクされる機密データを示します。

正解: B ([コメントを发表する](#))

Salesforceでプロンプトテンプレートをプレビューすると、Resolution」テキストに、サンプルレコードのデータに基づいたLLM (Large Language Model)からの応答が表示されます。この出力には、AIモデルがプロンプトに対して生成した応答が表示され、AIスペシャリストはテンプレートを最終決定する前に応答を確認して調整することができます。

* オプション B は正解です。Resolution は LLM によって生成された実際の応答を表示します。

* オプションはテキストを信頼レイヤーに送信することを指しますが、これは解像度が表すものではありません。

* オプションは、解像度ではなく他の場所に表示されるデータ マスキングに関連していません。

参考文献:

* Salesforce プロンプト ビルダーの概要:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.プロンプトビルダーの概要.htm>

質問: 33

Salesforce 管理者は、組織内のユーザーインタラクションを強化するために、Einstein Copilot の機能を検討しています。特に、Einstein Copilot がユーザーリクエストをどのように処理し、どのようなメカニズムで応答を返すかに関心があります。管理者は、Einstein Copilot が大規模言語モデル (LLM) と直接連携してユーザーからの問い合わせへの応答を取得・表示し、ユーザーからの幅広いリクエストに対応できるかどうかを評価しています。

Einstein Copilot は Salesforce でユーザーリクエストをどのように処理しますか？

A. Einstein Copilot は、プロンプト テンプレートを使用してメッセージを生成するフローをトリガーします。

B. Einstein Copilot は LLM プロバイダーへの HTTP コールアウトを実行します。

C. Einstein Copilot はユーザーのリクエストを分析し、LLM テクノロジーを使用して適切な応答を生成して表示します。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Copilot は、大規模言語モデル (LLM) を活用してユーザーからの問い合わせを処理し、応答することで、Salesforce 内でのユーザーインタラクションを強化するように設計されています。ユーザーがリクエストを送信すると、Einstein Copilot は自然言語処理技術を用いて入力内容を分析します。その後、LLM テクノロジーを活用して、適切かつ文脈に沿った応答を生成し、Salesforce インターフェイス内でユーザーに直接表示します。

オプション C は、このプロセスを正確に説明しています。Einstein Copilot は、ユーザーリクエストごとにフローをトリガーしたり (オプション A)、LLM プロバイダーへの HTTP コールアウトを実行したり (オプション B) するわけではありません。代わりに、LLM 機能を統合して即時かつインテリジェントなレスポンスを提供することで、幅広いユーザーリクエストに対応します。

参考文献:

* Salesforce AI スペシャリスト ドキュメント - Einstein Copilot の概要: Einstein Copilot が LLM を使用してユーザー入力を解釈し、Salesforce エコシステム内で応答を生成する方法について詳しく説明します。

* Salesforce ヘルプ - Einstein Copilot の仕組み: Einstein Copilot が AI テクノロジーを使用してユーザー リクエストを処理する基本的なメカニズムについて説明します。

質問: 34

Universal Containers (UC) は、顧客の生涯価値スコアと市場セグメントに基づいて、3 つの異なる電子メールのいずれかを顧客に送信する予定です。

UC では電子メールが選択された理由を説明する必要があることを考慮すると、これを実現するために UC はどの AI モデルを使用する必要がありますか？

A. 予測モデルと生成モデル

B. 生成モデル

C. 予測モデル

正解: C ([コメントを发表する](#))

ユニバーサル・コンテナーズは、顧客の生涯価値スコアと市場セグメントに基づいて、3 つのメールのうちどれを送信するかを決定するために予測モデルを活用すべきです。予測モデルはデータを分析して結果を予測し、今回のケースでは、顧客属性に基づいて最適なメールを予測します。さらに、予測モデルは、特定のメールが選択された理由を示す説明可能性も提供します。これは、UC の意思決定プロセスの説明要件にとって非常に重要です。

* 生成モデルは通常、意思決定ではなくコンテンツ作成に使用されるため、この要件には適していません。

* 予測モデルは、特定の決定が行われた理由を説明する機能を提供し、UC のニーズに一致しています。

予測モデルがセグメンテーションと意思決定にどのように使用されるかについて詳しくは、Salesforce の予測 AI モデルのドキュメントを参照してください。

質問: 35

Universal Containers は、ユーザーが販売注文番号を入力できるカスタム UX を備えたソリューションを Salesforce に実装したいと考えています。

その後、システムはカスタム プロンプト テンプレートを読み出して、販売注文ヘッダーと販売注文の詳細の概要を作成して表示します。

この要件を満たすために AI スペシャリストはどのソリューションを実装する必要がありますか？

A. 標準を使用して、販売注文番号を収集し、プロンプトテンプレートを読み出す画面フローを作成します。

「プロンプト テンプレート」フロー アクション。

B. テンプレートによってトリガーされるプロンプト フローを作成し、標準の「プロンプト テンプレート」フロー アクションを使用してプロンプト テンプレートを読み出します。

C. 自動起動フローを作成し、標準の「プロンプト テンプレート」フロー アクションを使用してプロンプト テンプレートを読み出します。

正解: ([正解を表示します](#))

ユーザーが販売注文番号を入力するとシステムが概要を生成するソリューションを実装するには、AI スペシャリストは販売注文番号を収集し、プロンプトテンプレートを読み出す画

面フローを作成する必要があります。その後、標準の「プロンプトテンプレート」フローアクションを使用してカスタムプロンプトをトリガーし、販売注文のヘッダーと詳細の概要を提供します。

* テンプレートによってトリガーされるプロンプト フローを作成するオプション B は、画面フローを通じて直接入力を収集する必要があるため、このシナリオでは必要ありません。

* 自動起動フローを使用するオプション C は、このソリューションではユーザー操作 (販売注文番号の入力) が必要であり、画面フローに最適なため、ここでは不適切です。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス:フローを使用したプロンプト テンプレートの作成に関する詳細なガイダンス:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_template_flow_integration.htm

質問: 36

Salesforce管理者は、顧客とのインタラクションデータを活用し、パーソナライズされたターゲットメールを作成したいと考えています。管理者は、大規模言語モデル (LLM) を活用してメールを作成し、異なる製品や顧客向けにテンプレートを再利用したいと考えています。

管理者はどのソリューションアプローチを活用すべきでしょうか?

A. 営業メールプロンプト テンプレート タイプを作成します。

B. 営業メールの標準テンプレートを使用する

C. フィールド生成プロンプトテンプレートタイプで作成

正解: A ([コメントを发表する](#))

質問: 37

Universal Containers のデータサイエンス チームは、Amazon Web Services (AWS) 上で生成大規模言語モデル (LLM) をホストしています。

Salesforce プラットフォームで外部でホストされているモデルにアクセスするためにチームは何を使用すればよいですか?

A. モデルビルダー

B. アプリビルダー

C. コパイロットビルダー

正解: A ([コメントを发表する](#))

AWS でホストされている大規模言語モデル (LLM) などの外部でホストされているモデルにアクセスするには、Salesforce のモデルビルダーが適切なツールです。モデルビルダーを使用すると、チームは外部 AI モデルを Salesforce プラットフォームに統合して展開できるため、Salesforce インフラストラクチャ外でホストされているモデルを活用しながら、プラットフォームのネイティブ AI 機能のメリットも享受できます。

* オプション B の App Builder は、AI モデルの統合ではなく、主に Salesforce でアプリケーションを構築および構成するために使用されます。

* オプション C の Copilot Builder は、外部 AI モデルを統合するのではなく、アシスタントのようなツールの構築に重点を置いています。

モデルビルダーを使用すると、外部システムやモデルとのシームレスな統合が可能になり、Salesforce ユーザーは外部 LLM を使用して AI 主導の洞察と自動化を生成できるようになります。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス:詳細については、モデル ビルダー ガイド ([https://help](https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.model_builder_external_models.htm)) を参照してください。

[salesforce.com/s/articleView?id=sf.model_builder_external_models.htm](https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.model_builder_external_models.htm)

質問: 38

Universal Containers は、標準基盤モデルを活用したプロンプト テンプレートを実装する予定です。

AI スペシャリストは、プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成するときに何を考慮すべきでしょうか？

A. LLM のコンテキスト理解をテストするために、プロンプト内に複数選択の質問を含めます。

B. LLM にさらにコンテキストを提供するために、プロンプト テンプレート内のキャラクターとしてロールプレイするように依頼します。

C. 単語の選択、強意語、絵文字、句読点などのさまざまな書き方を使用して、データで LLM をトレーニングします。

正解: ([正解を表示します](#))

プロンプトビルダーでプロンプトテンプレートを作成する際には、大規模言語モデル (LLM) がどのように処理し、出力を生成するかを考慮することが不可欠です。LLM を様々な文体 (単語の選択、強意語、絵文字、句読点など) で学習させることで、モデルは多様な文体パターンをより深く理解し、より文脈に適した応答を生成することができます。

このアプローチは、様々なユースケース向けに出力を生成する際の LLM の柔軟性と精度を向上させます。LLM は様々な表記規則やスタイルを認識するように訓練されているためです。プロンプトテンプレートは、豊富なコンテキストを提供することに重点を置くべきであり、このスタイルの多様性はモデルの適応性を向上させるのに役立ちます。

オプション A と B は、複数選択の質問やロールプレイングのシナリオを追加しても、標準的なビジネス コンテキスト内での AI の出力生成品質の向上に大きく貢献しないため、あまり関連性はありません。

詳細については、Salesforce の Prompt Builder ドキュメントと LLM チューニング戦略を参照してください。

質問: 39

Universal Containers (UC) には、Salesforce との統合が必要なレガシーシステムがあります。UC は、生成 API 機能を使用して、アカウントアクションプランのダイジェストを作成したいと考えています。

この要件を満たすために UC はどの API サービスを使用する必要がありますか？

A. REST API

B. メタデータAPI

C. SOAP API

正解: [\(正解を表示します\)](#)

生成API機能を使用してアカウントアクションプランのダイジェストを作成するには、Universal ContainersはREST APIを使用する必要があります。REST APIは、Salesforceと外部システムを統合し、Salesforceデータとのインタラクションを可能にするのに最適です。これには、サマリーやダイジェストの作成といった生成機能も含まれます。最新のWeb標準をサポートしており、Salesforceとレガシーシステム間の柔軟で軽量のインタラクションに適しています。

* メタデータ API は、要約の生成などのデータ操作ではなく、メタデータの取得と展開に使用されます。

* SOAP API は統合に使用される古い API ですが、この特定のユースケースでは REST に比べて柔軟性が低くなります。

データ統合とコンテンツ生成に REST を使用する方法の詳細については、Salesforce REST API ドキュメントを参照してください。

質問: 40

ユニバーサルコンテナズのAIスペシャリストは、新しいフィールド生成プロンプトテンプレートを設定しようとしています。彼らは以下の手順を実行します。

1. 新しいフィールド生成プロンプト テンプレートを作成します。
2. オブジェクト タイプとしてケースを選択します。
3. ターゲット フィールドとしてカスタム フィールド AI_Analysis_c を選択します。

AIスペシャリストはプロンプトテンプレートを作成後、保存、テスト、有効化を行いました。しかし、ケースレコードにアクセスしても、「AI分析」フィールドの編集鉛筆アイコン(スパークル)が表示されません。AIスペシャリストがフィールドを編集しているときは、通常のフィールドとして動作していました。

AI スペシャリストが見逃した重要なステップはどれですか？

A. フィールド生成プロンプトテンプレートを有効化した後、ケースオブジェクトの Lightning ページレイアウトを再有効化し忘れました。

B. ケース オブジェクトは追加の生成ではサポートされていないため、代わりに Feinstein サービス返信を使用する必要があることを忘れていました。

C. Lightning ページレイアウトを編集し、フィールドをプロンプトテンプレートに関連付けるのを忘れました

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

フィールド生成プロンプトテンプレートにスパークルアイコン AI生成コンテンツを示す)を表示するには、Lightningページレイアウトで対象フィールドをプロンプトテンプレートに明示的に関連付ける必要があります。プロンプトテンプレートが有効化されていても、

フィールドをページレイアウトに追加してテンプレートにリンクしないと、フィールドは標準フィールドとして動作します。Salesforceのドキュメントでは、AI駆動型フィールドインタラクションを有効にするにはページレイアウトの設定が必須であることが強調されています。

* アクティブ化後にレイアウト自体が変更されていない限り、レイアウト (A) を再アクティブ化する必要はありません。

* ケース オブジェクトはフィールド生成でサポートされています (B は不正解です)。

質問: 41

Universal Containers は、Einstein for Sales を活用して、取引を成立させるためのガイダンスと手順を含む AI 生成の計画を提供することで、営業担当者が販売ノルマを達成できるようにしたいと考えています。

AI スペシャリストは営業チームにどの機能を推奨すべきでしょうか？

A. 類似の取引を探す

B. アカウントプランの作成

C. クローズプランの作成

正解: C ([コメントを发表する](#))

成約プラン作成機能は、AIを活用した戦略とステップを生成し、成約に特化することで営業担当者を支援するように設計されています。この機能はAIを活用して商談の現状を分析し、成約に導くために必要なアクション、タイムライン、主要なステップをまとめたプランを生成します。実用的なインサイトと体系的なプランを提供することで、営業チームのノルマ達成ニーズに的確に対応します。

類似の取引の検索 (オプション A) は、営業担当者が現在の取引に類似した機会を見つけるのに役立ちますが、成約のための計画は提供しません。

アカウント作成プラン (オプション B) は、顧客エンゲージメントや維持など、アカウントを管理するための長期的な戦略に重点を置いていますが、取引の成立には重点を置いていません。

Salesforce AI スペシャリストリファレンス:

営業における AI の活用の詳細については、https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_for_sales_overview.htm をご覧ください。

質問: 42

Universal Containers (UC) は、顧客とのやり取り中にリアルタイムの洞察と推奨事項を提供することで、営業チームの生産性を向上したいと考えています。

UC が Agentforce Sales Agent の使用を検討する必要があるのはなぜですか？

A. 将来の分析のために顧客とのやり取りを追跡する

B. 販売プロセス全体を自動化して効率を最大限に高める

C. 販売プロセスを合理化し、コンバージョン率を向上させる

正解: ([正解を表示します](#))

Agentforce Sales Agentは、リアルタイムのインサイトとAIを活用したレコメンデーションを提供し、営業プロセスを効率化し、営業担当者が重要なタスクに集中してコンバージョン率を向上できるよう設計されています。リードスコアリング、商談の優先順位付け、プロアクティブなレコメンデーションなどの機能により、営業チームは顧客と効率的にやり取りし、より迅速に成約することができます。

* オプション A: 顧客とのやり取りを追跡することは有益ですが、これは Agentforce Sales Agent が提供する幅広い機能の一部にすぎず、リアルタイムの生産性を向上させるための主な目的ではありません。

* オプション B: Agentforce Sales Agent は、販売プロセス全体を自動化するわけではありませんが、販売チームを支援するための実用的な推奨事項を提供します。

* オプション C: これは、生産性の向上と販売の成功を促進するというツールの中心的な目的と一致しています。

質問: 43

Universal Containersはユーザー向けにAgentforceを導入しました。あるユーザーから、エージェントが過去7日間のアクティビティを削除していないという苦情がありました。この問題の原因は何でしょうか？

A. Agentforce にはユーザーのレコードを削除する権限がありません。

B. Agentforce レコード削除アクション権限がユーザーに関連付けられていません。

C. Agentforce には標準のレコード削除アクションがありません。

正解: ([正解を表示します](#))

* 質問のコンテキスト Universal Containers (UC) は、Salesforce 専用の AI 駆動型アシスタントである Agentforce を使用しています。ユーザーから、エージェントが最近のアクティビティを削除できないという報告がありました。

* Agentforceがレコードを削除できない理由

* Agentforceの標準アクション :Agentforceには通常、レコードの作成、更新、集計といった定義済みまたは「標準」のアクションが用意されています。ただし、標準のレコード削除アクションは、Agentforceのデフォルトのアクションセットには含まれていません。

* 影響: Agentforce に削除機能が組み込まれていない場合、ユーザーが Salesforce UI でアクティビティを削除する権限を持っていても、アクティビティを削除することはできません。

* 他の選択肢が間違っている理由

* オプションA - ユーザーのレコードを削除する権限 :Salesforceの標準ユーザー権限は、Agentforceの機能に自動的に拡張されるわけではありません。ユーザーがレコードを削除できる場合でも、Agentforceに新しいアクションが付与されるわけではありません。

* オプションB - Agentforce のレコード削除アクション権限 :Agentforce には、切り替え可能な「レコード削除アクション権限」が別途用意されていません。これは、Agentforce に標準のレコード削除アクションが標準装備されていないことが原因です。

* 結論 :この問題の主な原因は、Agentforce が標準のレコード削除アクション (選択肢 C) をサポートしていないことです。

Salesforce AIスペシャリストの参考資料とドキュメント

* Salesforce 公式ドキュメント - Agentforce(注: Agentforce はパイロット機能または特殊機能である可能性があります。標準アクションについては、パイロット リリース ノートまたは公式ドキュメントを確認してください。)

* Salesforce AI スペシャリスト学習ガイドレコード操作に関する特定の AI 対応機能の制限について説明します。

質問: 44

データ サイエンス チームは、Databricks 上で製品推奨用の XGBoost 分類モデルをトレーニングしました。

AI スペシャリストの役割は、このモデルから製品推奨の推論をスタンドアロンのデータ モデル オブジェクト (DMO) としてデータ クラウドに取り込むことです。

AI スペシャリストはこれをどのように設定すればよいのでしょうか？

A. Databricks でサービス エンドポイントを作成し、モデル ビルダーを使用してモデルを構成します。

B. Einstein Studio でサービスエンドポイントを作成し、モデルビルダーを使用してモデルを構成します。

C. Databricks でサービス エンドポイントを作成し、Python SDK コネクタを使用してモデルを構成します。

正解: **A** ([コメントを发表する](#))

XGBoost モデルからの推論をスタンドアロンのデータ モデル オブジェクト (DMO) として Salesforce のデータ クラウドに統合するには、次の手順を実行します。

* Databricks でサービス エンドポイントを作成します。

* トレーニング済みのモデルをリアルタイム推論に使用できるようにするには、サービング エンドポイントが必要です。

Databricks は、エンドポイントを介してモデルをホストおよび公開するためのツールを提供します。

* モデルビルダーを使用してモデルを構成します。

* エンドポイントを作成した後、AI スペシャリストは、Einstein Studio のモデル ビルダー内でエンドポイントを構成する必要があります。モデル ビルダーは、外部エンドポイントを Salesforce Data Cloud と統合し、推論を DMO として処理および保存します。

* オプション B: サービング エンドポイントは Einstein Studio では作成されず、統合前に Databricks などの外部プラットフォームで設定されます。

* オプション C: モデル推論を Salesforce Data Cloud に取り込むために Python SDK コネクタは使用されません。適切なツールはモデルビルダーです。

質問: 45

ユニバーサル・コンテナーズ UC)は、AIによる回答生成によって顧客の質問への対応効率を向上させ、エージェントの処理時間を短縮したいと考えています。エージェントは既存のナレッジベースを活用し、回答が大規模言語モデル (LLM)からのものなのか、Salesforce Knowledgeからのものなのかを識別する必要があります。

この要件を満たすために UC が実行する必要がある手順は何ですか？

- A. サービス AI グラウンディング、ケース付きグラウンディング、およびサービス リプライをオンにします。
- B. サービス応答、サービス AI グラウンディング、および知識によるグラウンディングをオンにします。
- C. サービス AI グラウンディングと知識によるグラウンディングをオンにします。

正解: ([正解を表示します](#))

AI 生成の応答によって効率を向上し、エージェントの処理時間を短縮するという Universal Containers の目標を達成するには、サービス返信、サービス AI グラウンディング、およびナレッジによるグラウンディングを有効にするのが最善のアプローチです。

- * サービス返信は自動的に応答を生成します。
 - * サービス AI グラウンディングは、AI が関連するケース データを使用していることを確認します。
 - * ナレッジに基づく基盤により、応答が Salesforce ナレッジ記事によって裏付けられ、エージェントは応答が LLM からのものか Salesforce ナレッジからのものか識別できるようになります。
 - * オプション C には、AI 応答の生成に必要なサービス応答は含まれません。
 - * オプション A は、応答ソースを識別するために不可欠な知識による基盤を無視します。
- 詳細については、グラウンディングとサービス応答に関する Salesforce Service AI ドキュメントを参照してください。

質問: 46

Universal Containers (UC) は、Flow を使用して、統合された Data Cloud オブジェクトからプロンプト テンプレートにデータを取得したいと考えています。

UC ではどのタイプのフローを使用する必要がありますか？

- A. Data Cloud によってトリガーされるフロー
- B. テンプレートによってトリガーされるプロンプトフロー
- C. 統合オブジェクトリンクフロー

正解: ([正解を表示します](#))

このシナリオでは、Universal Containers は統合された Data Cloud オブジェクトからプロンプトテンプレートにデータを取り込むことを目指しており、その最適な方法は Data Cloud トリガーフローを使用することです。このタイプのフローは、Salesforce Data Cloud オブジェクト内のデータ変更に基づいてアクションをトリガーするように特別に設計されています。

Data Cloud によってトリガーされるフローは、統合データモデルの変更をリッスンし、関連データを自動的にシステムに取り込み、プロンプトテンプレートで利用できるようにします。これにより、生成AI コンテキストで使用するデータは、リアルタイムかつ最新の状態であることが保証されます。

詳細なガイダンスについては、Data Cloud によってトリガーされるフローと、Data Cloud と生成 AI ソリューションとの統合に関する Salesforce ドキュメントを参照してください。

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 47

Salesforce モバイルアプリでユーザーが生成 AI 対応フィールドにアクセスできるようにするには、AI スペシャリストがどの構成を完了する必要がありますか？

- A. モバイル生成 AI を有効にします。
- B. モバイルプロンプト応答を有効にします。
- C. モバイルで動的フォームを有効にします。

正解: C ([コメントを发表する](#))

* 質問の文脈

* Universal Containers (UC) には、ユーザーがデスクトップ エクスペリエンスでアクセスできる生成 AI 対応フィールドがあります。

* AI スペシャリストは、これらの同じフィールドを Salesforce モバイル アプリで表示および使用できるようにする必要があります。

* モバイルで動的フォームを使用する理由

* 動的フォームを使用すると、特定の条件に基づいてフィールドやセクションを表示したり非表示にしたりできるようにレコード ページを構成できます。

* 「モバイル用動的フォーム」を有効にすると、動的レイアウトに配置された AI 対応の生成フィールドに Salesforce モバイルエクスペリエンスからアクセスできるようになります。

* ユニバーサル トグルとして 「モバイル生成 AI を有効にする」または 「モバイル プロンプト 応答を有効にする」というラベルの付いた標準の設定オプションはありません。既存の公式アプローチは、動的なフォーム (および関連フィールド) がモバイルでサポートされるようにすることです。

*** 結論**

* これらのAI駆動型フィールドをモバイルで表示するには、「モバイルでダイナミックフォーム」をオンにし、これらのフィールドをダイナミックレイアウトに追加します。したがって、オプションCが正解です。

Salesforce AIスペシャリストの参考資料とドキュメント

* Salesforce ドキュメント: 動的フォームの概要デスクトップ UI とモバイル UI の両方で動的フォームを有効にして、新しく追加されたフィールド (生成 AI 対応フィールドを含む) を Salesforce モバイル アプリに表示できるようにする方法について説明します。

* Salesforce AI スペシャリスト学習ガイド生成 AI フィールドまたはコンポーネントをモバイルで公開するには、動的フォームを構成し、モバイル レイアウトでの互換性を確保する必要があることを繰り返し説明します。

質問: 48

Einstein Trust Layer 内のどのメカニズムが、GDPR などのデータ保護規制に準拠して個人データが処理されることを保証するのに役立ちますか？

A. 毒性スコア

B. データマスキング

C. 迅速な防御

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 49

ユニバーサルコンテナズは、AI を使用して顧客サポートチームの生産性を向上させる予定です。

どのような具体的な使用例で Prompt Builder の使用が必要になりますか？

A. 新しい製品パッチに関するサポート速報投稿の下書きを作成しています

B. AI生成のカスタマーサポートエージェントのパフォーマンススコアの作成

C. 履歴データと季節的な傾向に基づいてサポートチケットの量を推定する

正解: ([正解を表示します](#))

Prompt Builder を使用する必要があるユースケースは、新しい製品パッチのサポート速報投稿の下書きを作成することです。Prompt Builder を使用すると、AI スペシャリストは、製品情報とパッチの詳細に基づいてサポート通信の下書きを作成するなど、特定の関連出力を生成するプロンプトを作成および調整できます。

* オプション B (エージェントのパフォーマンス スコア) では、プロンプト生成ではなく、予測モデリングが使用される可能性があります。

* オプション C (サポート チケットの量の見積もり) では、プロンプトの構築ではなく、データ分析と予測ツールが必要になります。

生成 AI コンテンツ作成の詳細については、Salesforce の Prompt Builder ドキュメントを参照してください。

質問: 50

Universal Containers (UC) は、営業チームが AI を使用してカタログから推奨製品を提案できるようにしたいと考えています。

UC ではどのタイプのプロンプト テンプレートを使用する必要がありますか？

- A. レコード概要プロンプトテンプレート
- B. メール生成プロンプトテンプレート
- C. Flexプロンプトテンプレート

正解: [\(正解を表示します\)](#)

ユニバーサルコンテナズ UC) は、営業チームが AI を活用してカタログから商品を推奨できるようにしたいと考えています。このユースケースに最適なオプションは、Flex プロンプトテンプレートです。

Flex プロンプトテンプレートは、製品情報、顧客ニーズ、販売履歴といった特定のデータポイントに基づいて、AI による柔軟でカスタマイズ可能なレコメンデーションやレスポンスを提供するように設計されています。このテンプレートタイプでは、AI が様々な入力値やパラメータを考慮できるため、動的な製品レコメンデーション生成に最適です。

対照的に：

* レコード概要プロンプト テンプレート (オプション A) は、販売機会やアカウントの簡単な概要を生成するなど、特定のレコードに関連するデータを要約するために使用されますが、製品の推奨には使用されません。

* 電子メール生成プロンプト テンプレート (オプション B) は、電子メール コンテンツの作成用にカスタマイズされており、カタログに基づいて製品を提案するのには適していません。

製品カタログやその他の販売データから取得した動的な推奨事項が必要であることを考えると、Flex プロンプト テンプレートが適切なアプローチです。

Salesforce リファレンス：

* Salesforce プロンプトテンプレートの概要: <https://help.salesforce.com/s/articleView?id=000391407&type=1>

* Flex Prompt テンプレートの使用法: https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.salesforce_ai.meta/salesforce_ai/プロンプトフレックステンプレート

質問: 51

管理者は、Universal Containers (UC) CRM データのセキュリティと信頼性を確保する責任を負います。UC には、強化されたデータ保護と最新の AI 機能が必要です。また、UC では、プロンプトにマージする Salesforce レコードの関連情報も含める必要があります。

Einstein Trust Layer のどの機能が UC のニーズを最もよくサポートしますか？

- A. データマスキング
- B. 安全なデータ取得を備えた動的グラウンディング
- C. ゼロデータ保持ポリシー

正解: B ([コメントを发表する](#))

SalesforceのEinstein Trust Layerの主要機能であるダイナミックグラウンディングとセキュアなデータ取得は、データ保護を強化し、AIが生成する出力の正確性と安全性を確保します。この機能により、関連するSalesforceデータをAIが生成するレスポンスに統合できるため、AIの出力はコンテキストを認識し、リアルタイムのCRMデータと整合性を保つことができます。

ダイナミックグラウンディングとは、AIモデルがSalesforceレコード（顧客レコード、ケースデータ、カスタムオブジェクトデータなど）から関連情報を安全に動的に取得することを意味します。これにより、AI処理中に機密データが保護され、AIモデルの出力がビジネス用途において信頼性と信頼性を確保します。

その他のオプションは要件とあまり一致していません。

データ マスキングは、プライバシー保護のために機密データを隠すことを指

し、Salesforce レコードをプロンプトにマージすることとは関係ありません。

ゼロデータ保持ポリシーにより、AI プロセスは処理後にユーザーデータを保存しないことが保証されますが、Salesforce レコード情報をプロンプトにマージする必要性には対応していません。

参照：

Einstein Trust Layer に関する Salesforce 開発者向けドキュメント

AIとデータプライバシーに関するSalesforceのセキュリティドキュメント

質問: 52

AIスペシャリストが営業チームにEinstein Sales Emailsを実装します。チームは、リードとのやり取りやSalesforceに保存されているデータに基づいて、パーソナライズされたフォローアップメールを送信したいと考えています。AIスペシャリストは、メール生成に最も正確で最新の情報を使用するようにシステムを設定する必要があります。

AI スペシャリストはどのグラウンディング手法を使用すべきですか？

A. Apex マージフィールドを使用したグラウンド

B. レコード結合フィールドを持つグラウンド

C. Draft with Einstein機能を使用した自動グラウンディング

正解: C ([コメントを发表する](#))

Einstein Sales Emailsでパーソナライズされたフォローアップメールを生成するには、メールの内容を最新かつ正確な情報でグラウンディングすることが不可欠です。グラウンディングとは、AIモデルをリアルタイムデータと連携させることを指します。この場合に最適な手法は、レコード差し込み項目によるグラウンディングです。この手法により、メールの内容はリードや連絡先情報などのSalesforceレコードから動的かつ正確なデータを直接取得し、特定のレコードに基づいて関連性が高くカスタマイズされたフォローアップを提供できます。

レコード結合フィールドにより、リード名、会社、その他の Salesforce フィールドなどのデータをレコードから直接取得し、生成される電子メールを高度にパーソナライズできます。

Apex マージ フィールドは通常、高度なカスタム ロジック駆動型のシナリオに適していませんが、このユース ケースでは最も簡単ではありません。

Draft with Einstein を使用した自動グラウンディングは、Einstein が自動的に電子メールを下書きするが、レコード結合フィールドなどのレコード固有のデータを使用してコンテンツを具体的にグラウンディングしないという異なる機能です。

参照：

Salesforce Einstein セールスメールのドキュメント：

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=release-notes.rn_einstein_sales_emails.htm

質問: 53

Prompt Builder の主な目的は何ですか？

- A.** Visual Studio Code で開発者が使用し、Apex プログラミングのプロンプトを作成して、開発者がより効率的にコードを記述できるように支援するツールです。
- B.** 企業が大規模言語モデル (LLM) 用の再利用可能なプロンプトを作成し、ワークフローに生成AI応答をもたらすツール
- C.** Salesforce 内のツールで、ユーザーにリアルタイムの AI を活用した提案やガイダンスを提供し、生産性と意思決定を向上させます。

正解: ([正解を表示します](#))

Prompt Builderは、大規模言語モデル (LLM) 向けの再利用可能なプロンプトの作成と設定を支援するために設計されています。ワークフローにAI生成応答を統合することで、Prompt BuilderはSalesforceデータと連携し、複雑なプロセスを自動化するAIプロンプトのカスタマイズを可能にします。このツールは、カスタマーサービスや営業など、様々なビジネスコンテキストにおいて、AI生成コンテンツを適切に作成し、一貫性を保つために特に役立ちます。

* Apex プログラミング用のツールではありません (オプション A の場合)。

* また、オプション C で説明したように、リアルタイムの提案に限定されません。代わりに、企業がワークフロー内で AI 駆動型の応答を生成および使用する方法を柔軟に管理およびカスタマイズする方法を提供します。

参考文献:

* Salesforce プロンプトビルダーの概要: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_builder.htm

質問: 54

Universal Containers は、Einstein Copilot for Sales を使用して同様の機会を見つけ、取引をより早く成立させています。

チームは、副操縦士が機会を一致させるために使用する基準を理解したいと考えています。

Einstein Copilot for Sales が類似の商談を一致させるために使用する 1 つの基準は何ですか？

- A.** マッチングされる商談は同じアカウントに限定されます。

B. 一致する商談は過去 12 か月以内に作成されました。

C. 一致した商談のステータスは、過去 12 か月間で「受注成立」です。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Copilot for Salesが類似商談をマッチングする際、主要な基準の一つとして、過去 12ヶ月以内に商談が「Closed Won（成立）」ステータスになっているかどうか挙げられます。これは、既存の商談成立に役立つ成功パターンを特定する上で重要な要素です。Einstein Copilotは、最近成立した商談に焦点を絞ることで、営業担当者に関連性の高いインサイトと提案を提供し、類似商談の早期成立を支援します。

詳細については、商談マッチングと販売成功パターンに関連する Salesforce Einstein Copilot のドキュメントを参照してください。

質問: 55

Einstein Copilot のカスタムアクション指示を調整する際のベストプラクティスは何ですか？

A. アクションをトリガーすると予想されるユーザー メッセージの例を提供します。

B. 複数のアクション指示にわたって一貫した導入フレーズと動詞を使用します。

C. アクションを要求するペルソナを指定します。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Copilot のカスタムアクション指示を改良する際には、アクションをトリガーすると想定されるユーザーメッセージの例を提供することがベストプラクティスとされています。これにより、カスタムアクションがさまざまなユーザー入力を理解し、メッセージの背後にある意図に効果的に対応できるようになります。

* オプション B (一貫したフレーズ) は明瞭さを向上させますが、トリガー ロジックを直接改良するものではありません。

* オプション C (ペルソナの指定) は、ユーザーがカスタム アクションとどのように対話するかを示す例を示すことほど重要ではありません。

詳細については、カスタムアクションの構築と調整に関する Salesforce の Einstein Copilot ドキュメントを参照してください。

質問: 56

Universal Containers (UC) は Flex プロンプトテンプレートを構築しています。UC は、プロンプトテンプレートでフローから返されるデータを使用する必要があります。

UC ではどのフロー要素を使用する必要がありますか？

A. フロー命令を追加する

B. プロンプト指示を追加する

C. Flex命令を追加する

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 57

Universal Containers は、大規模言語モデル (LLM) によって生成されたコンテンツに有害な言語が含まれているかどうかを高い信頼性で検出できるようにしたいと考えています。毒性が適切に管理されていることを確認するために、AI スペシャリストは信頼レイヤーでどのようなアクションを実行する必要がありますか？

- A. セットアップで毒性検出ログにアクセスし、isToxicityDetected が true であるすべてのエントリをエクスポートします。
- B. 応答からの毒性スコアが事前定義されたしきい値を超えるたびに、指定されたアドレスに電子メールを送信するフローを作成します。
- C. 毒性検出器タイプのフィルターを使用して毒性応答とそれぞれのスコアを表示する、Data Cloud 内で Trust Layer 監査レポートを作成します。

正解: ([正解を表示します](#))

大規模言語モデル (LLM) によって生成されたコンテンツが有害な言語について適切にスクリーニングされていることを確認するために、AI スペシャリストはデータクラウド内で Trust Layer 監査レポートを作成する必要があります。有害性検出タイプのフィルターを使用することで、レポートには有害なレスポンスとそれぞれの有害性スコアが表示されるため、Universal Containers は生成された有害なコンテンツを高い信頼性で監視・管理できます。

オプション C は、信頼レイヤー内での有害な言語の検出を可視化し、有害性に対する応答を監査できるため、正解です。

オプション A では毒性検出ログを確認することを提案していますが、Salesforce は監査レポートを通じてより包括的なオプションを提供しています。

オプション B では、毒性検出モニタリングには不要なフローを作成します。

参照：

Salesforce 信頼レイヤーのドキュメント: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_trust_layer_audit.htm

質問: 58

ユニバーサル コンテナーズ (UC) は、顧客サービス業務を強化するためにサービス AI グラウンディングを実装しています。

UC は、AI が生成した回答が最も関連性の高いデータソースに基づいていることを保証したいと考えています。チームは、グラウンディングのためにサポートされているすべてのオブジェクトを含めるようにシステムを構成する必要があります。

UC が Service AI Grounding を構成するために選択する必要があるオブジェクトはどれですか？

- A. ケース、知識、ケースノート
- B. 事例と知識
- C. ケース、ケースメール、ナレッジ

正解: ([正解を表示します](#))

Universal Containers (UC) は、顧客サービス業務を強化するために Service AI Grounding を実装しています。

AI によって生成された応答が最も関連性の高いデータ ソースに基づいていることを保証することを目的としており、その根拠としてサポートされているすべてのオブジェクトが含まれるようにシステムを構成する必要があります。

サービス AI グラウンディングでサポートされるオブジェクト:

- * 場合

- * 知識

- * ケースオブジェクト:

- * Grounding での役割: ケースの詳細、ステータス、履歴など、顧客からの問い合わせに関するコンテキスト データを提供します。

- * 利点: AI 応答をケース データに組み込むことで、提供される情報が対処対象の特定の顧客の問題に関連したものになることが保証されます。

- * 知識オブジェクト:

- * グラウンディングにおける役割: 一般的な問題に関連する解決策と情報を提供する記事とドキュメントが含まれています。

- * 利点: ナレッジ記事を利用すると、AI は検証された情報に基づいて正確で役立つ応答を提供できるようになります。

- * その他のオブジェクトの除外:

- * ケースノートとケースメール:

- * 接地ではサポートされていません: 内部参照には便利ですが、これらのオブジェクトはサービス AI 接地でサポートされるオブジェクトには含まれていません。

- * 理由: AI グラウンディングの目的には適さない機密データや非構造化データが含まれている可能性があります。

オプションAとCが間違っている理由:

- * オプション A (ケース、知識、ケースノート):

- * ケース ノートはサポートされていません: ケース ノートは、サービス AI でのグラウンディングでサポートされているオブジェクトではありません。

- * オプション C (ケース、ケースメール、ナレッジ):

- * ケース メールはサポートされていません: ケース メールも、グラウンディングでサポートされるオブジェクトのリストには含まれていません。

参考文献:

- * Salesforce AI スペシャリストドキュメント - Service AI グラウンディング構成: Service Cloud での AI 応答のグラウンディングにサポートされているオブジェクトの詳細を説明します。

- * Salesforce ヘルプ - Service AI グラウンディングの実装: ケースおよびナレッジ オブジェクトを使用したグラウンディングの設定に関するガイダンスを提供します。

- * Salesforce Trailhead - AI グラウンディングによるサービスの強化: サービス シナリオで AI グラウンディングを使用するためのインタラクティブな学習パスを提供します。

質問: 59

経営陣は、顧客とのより生産的な会話を促進するために、大規模言語モデル (LM) によって作成された要約または説明を動的なフォームフィールドに入力する必要があります。また、経営陣はAI戦略において人間を常に考慮に入れておくことも望んでいます。AI スペシャリストはどのプロンプト テンプレート タイプを推奨すべきですか？

- A. 営業メール
- B. フィールド生成
- C. レコードの概要

正解: ([正解を表示します](#))

正解は「フィールド生成」です。このテンプレートタイプは、大規模言語モデル (LM) によって生成されたコンテンツをフォームフィールドに動的に入力するように設計されているためです。このシナリオでは、経営陣は顧客とのやり取りを支援するために、AIによって生成された要約や説明を含む動的なフォームフィールドを必要としています。さらに、人間による操作を常に把握したいと考えているため、生成されたコンテンツは最終決定前に人間によってレビューまたは編集される可能性が高いため、「フィールド生成」プロンプトテンプレートと整合しています。

* フィールド生成 :このプロンプトタイプでは、Salesforce の特定のフィールドに対してコンテンツを生成できます。大規模な言語モデルを活用して、動的かつ文脈に沿った情報を作成します。レコード内で必要な箇所に AI コンテンツが確実に提供される一方で、人間による監視やレビューも可能となり、「人間参加型」戦略をサポートします。

* 営業メール: このプロンプト タイプは主に、アウトリーチや応答用のメール コンテンツを生成するために使用されますが、フォームのフィールドへの入力とは直接関連しません。

* レコードの概要: このオプションは似ているように見えるかもしれませんが、通常は、AI 生成に基づいて特定のフィールドに動的なコンテンツを入力するのではなく、高レベルの分析情報を得るためにレコード全体を要約するために使用されます。

Salesforce AI スペシャリストの参考資料:

* これらのプロンプトテンプレートと AI 機能の詳細については、Salesforce のドキュメントおよび Prompt Builder の公式リソースを参照してください:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_builder_templates_overview.htm

質問: 60

経営陣は、顧客とのより生産的な会話を促進するために、大規模言語モデル (LM) によって作成された要約または説明を動的なフォームフィールドに入力する必要があります。また、経営陣はAI戦略において人間を常に考慮に入れておくことも望んでいます。AI スペシャリストはどのプロンプト テンプレート タイプを推奨すべきですか？

- A. 営業メール
- B. フィールド生成

C. レコードの概要

正解: B ([コメントを发表する](#))

質問: 61

Prompt Builder の主な目的は何ですか？

- A. Visual Studio Code で開発者が使用し、Apex プログラミングのプロンプトを作成して、開発者がより効率的にコードを記述できるように支援するツールです。
- B. 企業が大規模言語モデル (LLM) 用の再利用可能なプロンプトを作成し、ワークフローに生成AI応答をもたらすツール
- C. Salesforce 内のツールで、ユーザーにリアルタイムの AI を活用した提案やガイダンスを提供し、生産性と意思決定を向上させます。

正解: ([正解を表示します](#))

Prompt Builderは、大規模言語モデル (LLM) 向けの再利用可能なプロンプトの作成と設定を支援するために設計されています。ワークフローにAI生成応答を統合することで、Prompt BuilderはSalesforceデータと連携し、複雑なプロセスを自動化するAIプロンプトのカスタマイズを可能にします。このツールは、カスタマーサービスや営業など、様々なビジネスコンテキストにおいて、AI生成コンテンツを適切に作成し、一貫性を保つために特に役立ちます。

これは Apex プログラミング用のツールではありません (オプション A のように)。

また、オプション C で説明したように、リアルタイムの提案に限定されません。代わりに、企業がワークフロー内で AI 駆動型の応答を生成および使用する方法を柔軟に管理およびカスタマイズする方法を提供します。

参照：

Salesforce プロンプトビルダーの概要: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_builder.htm

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 62

プロンプト テンプレートのバージョンが不変と記載されている場合、それはどういう意味ですか？

- A. テンプレートの最新バージョンのみをアクティブ化できます。

B. テンプレートのすべての変更は、新しいバージョンとして自動的に保存されます。

C. プロンプト テンプレート バージョンがアクティブ化されました。このバージョンにはこれ以上の変更を保存できません。

正解: **C** ([コメントを発表する](#))

プロンプトテンプレートのバージョンが不変の場合、そのバージョンは一度アクティブ化されると編集や変更ができなくなります。これにより、変更によってワークフローが中断される可能性のある本番環境でも一貫性が確保されます。

* オプション A は不正解です。ユースケースに応じて、最新バージョンだけでなく任意のバージョンをアクティブ化できます。

* オプション D は不正解です。変更には手動で新しいバージョンを作成する必要があり、自動バージョン管理は強制されません。

* オプション C が正解です: アクティベーションによりバージョンがロックされ、不変性が強化されます。

参考文献:

* Salesforce ヘルプ: プロンプトテンプレートのバージョン管理

* 「アクティブ化されたプロンプト テンプレートのバージョンは変更不可能であり、編集できません。」と記載されています。

質問: **63**

Universal Containers は最近、Einstein Copilot を使用して会話型 AI を CRM ビジネス オペレーションに統合するパイロット プログラムを開始しました。

AI スペシャリストは、Copilot の使いやすさとアクションの割り当てをどのように監視する必要がありますか？

A. プラットフォーム デバッグ ログに関するレポートを実行します。

B. メタデータ API を使用して Copilot ログ データを照会します。

C. Einstein Copilot Analytics を実行します。

正解: **C** ([コメントを発表する](#))

Einstein Copilot の使いやすさとアクションの割り当てを監視するには、AI スペシャリストは Einstein Copilot Analytics を実行する必要があります。この機能は、Copilot の使用頻度、処理されているアクションの種類、そしてシステムに対するユーザーの全体的なエンゲージメントに関するインサイトを提供します。これは、Copilot のパフォーマンスと使用パターンを追跡する最も効果的な方法です。

* プラットフォーム デバッグ ログは、ユーザーの動作の追跡や Copilot アクションの割り当てには関係ありません。

* メタデータ API を介して Copilot ログ データをクエリしても、必要な分析情報が構造化された形で提供されません。

AI 駆動型インタラクショナルの追跡の詳細については、Salesforce の Copilot Analytics ドキュメントを参照してください。

質問: 64

Einstein Trust Layer は、有用かつ意味のある応答を生成しながら機密データが保護されることをどのように保証するのでしょうか？

- A. マスクされたデータは応答の過程でマスク解除されます。
- B. マスクされたデータはリクエストの過程でマスク解除されます。
- C. 関連性のしきい値を満たさない応答は自動的に拒否されます。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Trust Layer は、機密データを Large Language Model (LLM) に送信する前にマスクし、応答の過程でマスクを解除することで、機密データが保護されると同時に、有用で意味のある応答を生成します。

仕組み:

- * リクエストジャーニーにおけるデータマスキング:
- * 機密データの識別: プロンプトを LLM に送信する前に、Einstein Trust Layer は入力内容をスキャンして、個人を特定できる情報 (PII)、機密ビジネス情報、その他の機密データなど、機密データが含まれているかどうかを確認します。
- * 機密データのマスキング: 識別された機密データはプレースホルダーまたはマスクに置き換えられます。これにより、LLMは生の機密情報を受け取らず、潜在的な漏洩から保護されます。
- * LLMによる処理:
- * マスクされた入力: LLM はマスクされたプロンプトを処理し、マスクされたデータに基づいて応答を生成します。
- * 機密データの露出なし: LLM は実際の機密データを受信することはないため、そのデータが誤って出力に含まれるリスクはありません。
- * 対応過程におけるマスク解除:
- * 機密データの再挿入: LLM が応答を生成した後、Einstein Trust Layer は応答内のプレースホルダーを元の機密データに置き換えます。
- * 意味のある回答の提供: このマスキング解除プロセスにより、最終的な回答が意味があり完全なものとなり、必要な機密情報が適切な場所に含まれるようになります。
- * データ セキュリティの維持: 機密データが LLM または意図しない受信者に公開されるのではなく、データのセキュリティとコンプライアンスが維持されます。

オプションAが正しい理由:

- * 応答中のデマスキング: LLM が応答を生成した後にデマスキング プロセスが実行され、機密データが最終段階でのみ安全かつ適切に出力に再導入されることが保証されます。
- * セキュリティとユーティリティのバランス: このアプローチにより、システムはデータのセキュリティを損なうことなく、必要な機密情報を含む有用で意味のある応答を生成できます。

オプションBとCが間違っている理由:

- * オプション B (マスクされたデータはリクエストの過程でマスク解除されます):

- * 不適切なプロセス: リクエストの過程でマスクを解除すると、機密データが LLM に到達する前に公開され、マスクの目的が達成されず、データのセキュリティが損なわれます。
- * オプション C (関連性のしきい値を満たさない応答は自動的に拒否されます):
- * データ保護とは無関係 :Einstein Trust Layerは、不適切または無関係な応答を除外するために関連性のしきい値を適用しますが、このメカニズムは機密データの保護とは直接関係しません。これは、データセキュリティではなく、応答の品質に焦点を当てたものです。

参考文献:

- * Salesforce AI スペシャリストドキュメント - Einstein Trust Layer の概要:
- * 信頼レイヤーがプロンプト内の機密データをマスクし、LLM 処理後にそれを再挿入してデータのプライバシーを保護する方法について説明します。
- * Salesforce ヘルプ - データ マスキングとデマスキングのプロセス:
- * LLM に送信する前の機密データのマスキングと、応答中のマスキング解除プロセスについて詳しく説明します。
- * Salesforce AI スペシャリスト試験ガイド - AI におけるセキュリティとコンプライアンス:
- * AI 実装における Einstein Trust Layer などのデータ保護メカニズムの重要性について説明します。

結論 :

Einstein Trust Layerは、LLMへのプロンプト送信前に機密データをマスキングし、レスポンス処理中にデマスキングすることで、機密データの保護を確実にします。このプロセスにより、SalesforceはAI処理中に機密データを公開することなく、必要な機密情報を含む有用で意味のあるレスポンスを生成することができ、データのセキュリティとコンプライアンスを維持できます。

質問: 65

Universal Containers (UC) は Flex プロンプトテンプレートを構築しています。UC は、プロンプトテンプレートでフローから返されるデータを使用する必要があります。

UC ではどのフロー要素を使用する必要がありますか？

- A. Flex命令を追加する
- B. プロンプト指示を追加する
- C. フロー命令を追加する

正解: ([正解を表示します](#))

* 質問の文脈

- * Universal Containers (UC) は、フローによって返されるデータを使用する Flex プロンプトテンプレートを構築したいと考えています。
- * Flex Prompt テンプレート」を使用すると、管理者と AI スペシャリストは、外部データまたは動的データを生成 AI プロンプトに組み込むことができます。
- * 「フロー指示の追加」が必要な理由

- * フローデータをプロンプトテンプレートに渡す :プロンプトを設定する際に、実行中のフローからFlexテンプレートにデータを渡す方法を指定する必要があります。そのために指定される要素は通常「フロー指示」で、フローの出力をプロンプトにマッピングします。
 - * その他のオプション:
 - * Flex 命令の追加: 通常、フロー データをテンプレートに取り込む方法ではなく、AI がどのように応答するか、または出力を構成するかを制御します。
 - * プロンプト指示の追加: 通常は、フローからの動的データを参照するのではなく、AI の応答を形成する静的または手動の指示です。
 - * 結果
 - * 「フロー指示の追加」により、プロンプトがフローから返されるデータを動的に使用できるようになり、オプション C が正しいことが保証されます。
- Salesforce AIスペシャリストの参考資料とドキュメント
- * Salesforce ヘルプ & トレーニング: フローでのプロンプトテンプレートの使用では、特殊なステップ(「フローの指示」など)を介してフロー変数をプロンプトテンプレートに渡す方法について説明します。
 - * Salesforce AI スペシャリスト学習ガイドでは、リアルタイムのフロー データを参照する生成 AI プロンプトを構成する方法について説明します。

質問: 66

ユニバーサルコンテナーズは、AI を活用して営業チームの生産性を向上させる計画です。どのような特定の要件で Prompt Builder の使用が必要になりますか？

- A. 今後の展示会のニュースレターの草稿を作成する
- B. 過去の購入データから推定顧客生涯価値 (CLV)を作成する
- C. 顧客が会社との関係を断つ可能性を予測する

正解: A ([コメントを发表する](#))

質問: 67

営業部門へのAgentforce States Agentの導入が成功した後、Universal Containersはサービス部門への展開を目指しています。

AI スペシャリストがこの展開において留意すべき重要な点は何ですか？

- A. Service Cloud ユーザーに Agentforce for Service 権限を割り当てます。
- B. 標準サービスアクションを Agentforce サービスエージェントに割り当てます。
- C. Service Center ユースケースの標準およびカスタム エージェントのトピックとアクションを確認してテストします。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Agent (旧称 Agentforce) を Sales から Service Cloud にデプロイする場合:

- * エージェントのトピックとアクションはコンテキストによって異なります。Service Cloud のユースケース (ケース解決、ナレッジ検索など) では、既存のトピック/アクションを検証し、サービスワークフローとの整合性を確保する必要があります。

* オプション A: 「Agentforce for Service」などの権限は必要ですが、機能の互換性のために必要です。

* オプション B: 標準のサービス アクションは Agentforce にマッピングする必要がありますが、テストによって意図したとおりに機能することが確認されます。

参考文献:

* Salesforce ヘルプ: Einstein エージェントの設定

* 「さまざまなユーザー グループ (営業とサービス) のトピックとアクション」の確認に重点を置いています。

質問: 68

AI スペシャリストは、フィールド生成プロンプト テンプレート タイプの使用を検討しています。

フィールド生成プロンプトを作成する前に、フィールドを生成 AI 用に有効化できるかどうかを確認するために AI スペシャリストは何を確認する必要がありますか？

A. 選択したフィールドは、255 文字以上のリッチ テキスト フィールドである必要があります。

B. 組織が API バージョン 59 以上に設定されていること

C. フィールドが配置される Lightning ページレイアウトが動的フォームにアップグレードされていること

正解: ([正解を表示します](#))

フィールド生成プロンプトテンプレートを作成する前に、AI スペシャリストは Salesforceorg が API バージョン 59 以上に設定されていることを確認する必要があります。このバージョンの API では、生成 AI 出力用のフィールドの有効化など、高度な生成 AI 機能がサポートされています。これは、フィールド生成プロンプトテンプレートが正しく機能するための重要な技術要件です。

* オプション A (リッチ テキスト フィールドの要件) は、生成 AI 機能には必要ありません。

* オプション C (動的フォーム) は、フィールドを生成 AI 対応にする機能には影響しませんが、ユーザー インターフェイスが強化される可能性があります。

詳細については、API バージョン管理とフィールド生成テンプレートに関する Salesforce ドキュメントを参照してください。

質問: 69

Universal Containers は、販売提案を作成し、複数の無関係なオブジェクト (標準およびカスタム) のデータをプロンプト テンプレートで直接使用したいと考えています。

AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか？

A. 標準オブジェクトとカスタム オブジェクトを入力として含むリソースを追加する Flex テンプレートを作成します。

B. 一時的にレコードを接続する特別なカスタムオブジェクトを渡してプロンプトテンプレートを作成します。

C. プロンプト テンプレートによってトリガーされるフローを作成し、標準オブジェクトとカスタム オブジェクトのデータにアクセスします。

正解: ([正解を表示します](#))

ユニバーサルコンテナズは、プロンプトテンプレート内の複数の無関係な標準オブジェクトとカスタムオブジェクトのデータを使用して、営業提案書を作成する必要があります。これを実現する最も効果的な方法は、Flexテンプレートを使用することです。

SalesforceのFlexテンプレートを使用すると、AIスペシャリストは、様々な標準オブジェクトやカスタムオブジェクトを含む複数のソースからの入力を受け入れるプロンプトテンプレートを作成できます。この柔軟性により、中間のカスタムオブジェクトや複雑なフローを作成することなく、関連のないオブジェクトのデータを直接利用できるようになります。

参考文献:

* Salesforce AI スペシャリスト ドキュメント - Flex テンプレート: Flex テンプレートを使用して複数のソースからのデータを取り込み、プロンプト テンプレートの複雑なデータ要件に柔軟なソリューションを提供する方法について説明します。

質問: 70

AI スペシャリストが、多くのレコードで機能するフィールド生成プロンプト テンプレートを作成しましたが、ユーザーからトークン制限エラーによるランダムな失敗が報告されています。

このエラーがランダムに発生する原因は何でしょうか？

A. プロンプト テンプレートの動的な性質によって生成されるトークンの数は、レコードによって異なります。

B. プロンプトグラウンディングによって生成されるトークンの可変量に対応するには、テンプレート タイプを Flex に切り替える必要があります。

C. LLM で処理できるトークンの数は、ユーザー全体の需要によって異なります。

正解: ([正解を表示します](#))

トークン制限エラーの原因は、フィールド生成で使用するプロンプトテンプレートの動的な性質にあります。SalesforceのAI生成モデルでは、各プロンプトとその出力にトークン制限が適用され、これは大規模言語モデル (LLM) の入力と出力の両方に当てはまります。プロンプトテンプレートは各レコードの特定のデータに基づいて動的に調整されるため、トークン数はレコードごとに異なります。一部のレコードは、データ属性に基づいてより長い出力を生成する場合があります、トークン数がLLMの許容制限を超え、トークン制限エラーが発生します。

この動作は、ユーザーがランダムにエラーを経験する理由を説明しています。これは、それぞれのケースで使用される特定のデータに依存します。特定のレコードでは、入力と出力の組み合わせがトークン制限内に収まる場合がありますが、他のレコードではトークン制限を超える場合があります。この変動は、動的テンプレートが大規模な言語モデルと相互作用する方法に固有のものです。

Salesforceはドキュメントで、プロンプトテンプレートの設計ではトークン制限を考慮する必要があるとガイダンスを提供しており、このようなランダムエラーを回避するために、さまざまなレコードでテストすることを推奨しています。解決策としてFlexテンプレートタイプへの切り替えについては言及されておらず、トークン制限がユーザーの需要に応じて変動することも示唆されていません。トークン制限はモデル自体によって定義される定数であり、外部ユーザー負荷とは無関係です。

参照：

Salesforce 開発者向けドキュメント: Generative AI モデルのトークン制限について

Salesforce AI プロンプト設計のベストプラクティス (Trailhead または Salesforce ブログ リソース)

質問: 71

AIスペシャリストは、営業チーム向けに営業メールプロンプトテンプレートの使用を有効にする必要があります。AIスペシャリストは既にプロンプトビルダーでテンプレートを作成しています。

ベストプラクティスによれば、営業チームがこれらのテンプレートを使用できるようにするには、AI スペシャリストはどのような手順を踏む必要がありますか？

A. プロンプト テンプレート ユーザー権限セットを割り当て、セットアップで営業メールを有効にします。

B. プロンプト テンプレート マネージャー権限セットを割り当て、セットアップで営業メールを有効にします。

C. Data Cloud 管理者権限セットを割り当て、セットアップで営業メールを有効にします。

正解: ([正解を表示します](#))

営業メールプロンプトテンプレートを有効にするには:

- * 権限セット: 営業チームにプロンプト テンプレート ユーザー権限セットを割り当てて、事前に構築されたテンプレートを使用するためのアクセス権を付与します。

- * 機能の有効化: Salesforce セットアップで営業メールを有効にして、プロンプト テンプレートとメール ワークフロー間の統合を有効化します。

- * オプション B (管理者権限セット): テンプレートの作成/変更には必要ですが、使用には必要ありません。

- * オプション C (データ クラウド管理者): プロンプト テンプレート アクセスとは無関係です。

参考文献:

- * Salesforce ヘルプ: プロンプトテンプレートの権限

- * ワークフローでテンプレートを活用するには、「プロンプト テンプレート ユーザー」が必要であることを指定します。

- * Sales Email Setup」では、セットアップで機能を有効にする方法について説明します。

質問: 72

Universal Containers の現在の AI データ マスキング ルールは、組織のプライバシーとセキュリティのポリシーおよび要件に準拠していません。

問題を解決するために AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか？

- A. サンドボックスの更新のデータ マスキングを有効にします。
- B. Einstein Trust Layer セットアップでデータ マスキングを構成します。
- C. LLM セットアップに新しいデータ マスキング ルールを追加します。

正解: ([正解を表示します](#))

Universal ContainersのAIデータマスキングルールが組織のプライバシーおよびセキュリティ基準を満たしていない場合、AIスペシャリストはEinstein Trust Layer内でデータマスキングルールを設定する必要があります。Einstein Trust Layerは、プライバシーポリシーと規制を遵守するために機密データをマスキングまたは匿名化できる、安全でコンプライアンスに準拠した環境を提供します。

* サンドボックスの更新時にデータ マスキングを有効にするオプション A は、AI が本番環境データと対話する方法とは別のサンドボックス環境に関連しています。

* LLM セットアップでマスキング ルールを追加するオプション C は、データ マスキングが LLM 構成ではなく Einstein Trust Layer を通じて管理されるため、適切ではありません。Einstein Trust Layer を使用すると、AI モデルに公開されるデータをより詳細に制御し、プライバシー規制への準拠を確保できます。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス:詳細について

は、https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_trust_layer_data_masking.htm を参照してください。

id=sf.einstein_trust_layer_data_masking.htm

質問: 73

Universal Container (UC) は、Lightning レコードページのサマリー項目を更新するためにプロンプトテンプレートを効果的に活用しています。管理者は現在、Flow を使用して同様の機能を UC の自動化プロセスに組み込みたいと考えています。

管理者は、フロー内からこのプロンプト テンプレートからの応答を取得し、UC の自動化の一部として使用するにはどうすればよいですか？

- A. 呼び出し可能なApex
- B. フローアクション
- C. フローのためのアインシュタイン

正解: B ([コメントを发表する](#))

* 質問の文脈

* Universal Container (UC) は、プロンプト テンプレートを使用してレコード ページの概要フィールドを更新しました。

* 現在、管理者は自動化の目的で、フロー内に同様の生成 AI 機能を組み込むことを希望しています。

* フロー内でプロンプトテンプレートを呼び出す方法

* フローアクション :Salesforce は、フローステップ内で生成 AI テンプレートまたはプロンプトを呼び出すための標準的な方法を提供しています。フロービルダーから、プロンプトビルダーで作成したプロンプトテンプレートを参照する「アクション」を追加できます。

* その他のオプション:

* 呼び出し可能な Apex: すぐに使用できるフローアクションがない場合にフォールバックとして使用できます。

ただし、Salesforce は AI プロンプト用のネイティブ Flow 統合をリリースしているため、カスタム Apex の必要性は低くなります。

* Einstein for Flow: Flow 内の Salesforce の生成 AI 機能の総称。

内部的には、通常、プロンプトを指す「フロー アクション」を使用します。

* 結論

* 最も簡単なすぐに使用できるソリューションは、プロンプト テンプレートを参照する Flow アクションを使用することです。

したがって、オプションBが正解です。

Salesforce AIスペシャリストの参考資料とドキュメント

* Salesforce Trailhead: フローでプロンプトテンプレートを使用するプロンプトテンプレート呼び出しアクションをフロー内に追加する方法を示します。

* Salesforce ドキュメント:Einstein GPT for Flow では、生成 AI 応答を呼び出して処理するための標準フロー アクションについて説明します。

質問: 74

Universal Containers は、Prompt Builder で外部の大規模言語モデル (LLM) を使用したいと考えています。

AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか？

A. Apex を使用して外部 LLM に接続し、プロンプトを接地します。

B. Einstein StudioのBYO-LLM機能を使用する。

C. フローおよび外部サービスを使用して、外部 LLM からデータを取得します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Einstein StudioのBring Your Own Large Language Model (BYO-LLM) 機能により、組織は Salesforceエコシステム内で外部の大規模言語モデル (LLM) を統合 利用できるようになります。Universal Containersはこの機能を活用して、外部LLMと接続し、プロンプトをグラウンディングすることで、カスタムAIモデルのユースケースとSalesforceデータとのシームレスな統合を実現します。

Einstein Studio には外部モデルを操作するための組み込み機能が用意されているため、オプション B が正しい選択です。

オプション A では Apex の使用が推奨されていますが、BYO-LLM 機能により、より合理化されたソリューションが提供されます。

オプション C はフローおよび外部サービスに重点を置いていますが、これはデータ統合に関するものであり、LLM での作業には適していません。

参照：

Salesforce Einstein Studio BYO-LLM ドキュメント:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_studio_llm.htm

質問: 75

AI スペシャリストが Einstein Trust Layer 内でデータ マスキングを構成しました。

AI スペシャリストは、正しいフィールドがマスクされていることをどのように検証する必要がありますか？

A. プロンプト ビルダーのフローベースのリソースを使用して、フロー デバッガーでフィールドのマージ値をデバッグします。

B. 設定メニューのセキュリティセクションから Einstein Generative AI 監査データを要求します。

C. Einstein フィードバック設定ページで、Einstein Generative AI 監査データの収集と保存を有効にします。

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

Einstein Trust Layer で正しいフィールドがマスクされていることの検証を開始するには、AI スペシャリストが Salesforce セットアップ メニューのセキュリティ セクションから Einstein Generative AI 監査データを要求する必要があります。

この監査データにより、AI スペシャリストは、どのフィールドがマスクされているかなど、データがどのように処理されているかを確認できるため、構成が期待どおりに機能していることの透明性と検証が可能になります。

* オプション B は、データ マスキングの検証に使用できる監査データの取得を可能にするため、正解です。

* オプション A (フロー デバッガー) とオプション C (Einstein フィードバック)

は、Einstein Trust Layer のコンテキストでのフィールド マスキングの検証には関係しません。

参考文献:

* Salesforce Einstein Trust Layer ドキュメント: <https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.>

[アインシュタイン信頼レイヤー監査.htm](#)

質問: 76

AI スペシャリストが、フローを参照アクションタイプとしてコパイロットカスタムアクションを作成しました。しかし、会話プレビューに期待通りの結果が返されないため、トラブルシューティングが必要です。

AI スペシャリストは問題の根本原因を特定するために何をすべきでしょうか？

A. Copilot Builder の Dynamic Panel 内で、動的デバッグをオンにして入力と出力を表示します。

B. ダイナミック パネル内の Copilot Builder で、選択したアクションを確認し、入力セクションと出力セクションの値を確認します。

C. Copilot Builder で、ユーザーが入力した発話を確認し、セッション イベント ログでデバッグ情報を確認します。

正解: ([正解を表示します](#))

フローを参照アクションタイプとしてCopilotカスタムアクションのトラブルシューティングを行う場合、Copilot Builderのダイナミックパネルで動的デバッグを有効にすることが、根本原因を特定する最も効果的な方法です。動的デバッグを有効にすると、AIスペシャリストはフローの入力と出力の両方を示す詳細なログを確認できるため、アクションが失敗している箇所や期待どおりの結果が得られていない箇所を特定するのに役立ちます。

* 選択したアクションを確認し、入力セクションと出力セクションを観察するオプション B は、フロー構成の監視には役立ちますが、動的デバッグで利用できる詳細な診断情報は提供されません。

* オプション C は、ユーザーの発話を検証し、セッション イベント ログを確認することで、役立つコンテキストを提供できますが、動的デバッグは、入力と出力の問題をリアルタイムで特定するための主なツールです。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス: Copilot Builder の動的デバッグの詳細については、以下を参照してください。

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.copilot_custom_action_debugging.htm

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード:
JPNshiken」

質問: 77

Universal Containers は、サポート エージェントが Agentforce を使用して、製品チュートリアルや製品ガイドに関する質問をできるようにしたいと考えています。

この要件を満たすために AI スペシャリストは何をすべきでしょうか？

A. 製品のチュートリアルとガイド用のプロンプト テンプレートを作成します。

B. チュートリアルの手順については、製品オブジェクトに「質問に回答」カスタム フィールドを追加します。

C. 製品のチュートリアルとガイドをナレッジ記事として公開します。

正解: C ([コメントを发表する](#))

* 質問のコンテキストUniversal Containers (UC) は、サポートエージェントが製品チュートリアルや製品ガイドに関する質問をする際に Agentforce を使用することを推奨してい

ます。Agentforce は通常、ナレッジソースを参照して、正確で状況に応じた回答を提供します。

* なぜナレッジ記事が必要なのでしょうか？

* 一元化されたリポジトリ: Salesforce で製品のチュートリアルやガイドをナレッジ記事として公開すると、Agentforce で情報をすぐに利用および検索できるようになります。

* AI 統合: Agentforce を含む Salesforce の AI ソリューションは、多くの場合、Salesforce Knowledge 記事から直接コンテンツを取得するように構成できるため、手動でデータを複製することなく、ユーザーにオンデマンドの回答を提供できます。

* メンテナンスと更新: Salesforce Knowledge にコンテンツを保存すると、コンテンツの更新、バージョン管理、ユーザー権限が簡素化されます。

* 他のオプションを選択しないのはなぜですか？

* オプションA プrompt テンプレートの作成) Prompt テンプレートを作成するだけでは、Agentforce による基盤となるコンテンツ (チュートリアル、ガイド) の保存方法やアクセス方法は解決されません。Prompt テンプレートはクエリ/応答を整形しますが、ナレッジベースは提供しません。

* オプションB (質問への回答カスタムフィールドの追加) : 製品オブジェクトに単一のフィールドを追加するだけでは、チュートリアルやガイドにあるような詳細な情報を提供するには不十分です。また、ナレッジ記事が提供する強力な検索機能やユーザーフレンドリーなインターフェースも備えていません。

* 結論 Agentforce が製品に関する正確な情報を効果的に取得して配信できるようにするには、製品のチュートリアルとガイドをナレッジ記事として公開することが推奨されるアプローチです。

Salesforce AI スペシャリストの参考資料とドキュメント

* Salesforce ドキュメント: Salesforce ナレッジの設定 AI 駆動型アシスタントやサポートチームが簡単にアクセスできるように記事を公開する方法について説明します。

* Salesforce AI スペシャリスト学習ガイドでは、生成 AI と Agentforce に知識ソースを供給するためのベスト プラクティスについて説明します。

質問: 78

Salesforce 組織で Prompt Builder を活用するための正しいプロセスは何ですか？

A. 使用する適切な Prompt テンプレートタイプを選択し、Salesforce の標準 Prompt の 1 つを選択し、Prompt を関連付けるオブジェクトを決定し、検証するレコードを選択し、Prompt をアクションに関連付けます。

B. 使用する適切な Prompt テンプレートタイプを選択し、Prompt ワークスペース内で Prompt を開発し、CRM から派生したグラウンディング データを動的に挿入するためのリソースを選択し、使用するモデルを選択して、生成された応答をテストおよび検証します。

C. 生成プロンプトのターゲット オブジェクトを有効にし、プロンプト ワークスペース内でプロンプトを開発し、レコードを選択して応答を微調整および確立し、信頼レイヤーを有効にして、プロンプトをアクションに関連付けます。

正解: ([正解を表示します](#))

Salesforce 組織でプロンプトビルダーを使用する場合、正しいプロセスにはいくつかの重要な手順が含まれます。

ユースケースに基づいて適切なプロンプト テンプレート タイプを選択します。

テンプレートが作成およびカスタマイズされるプロンプト ワークスペース内でプロンプトを開発します。

CRM から得られたグラウンディング データを選択してプロンプトに動的に挿入し、AI によって生成された応答が正確で関連性のあるデータに基づいていることを保証します。

Salesforce の組み込みモデルまたはカスタムモデルのいずれかを使用して、応答の生成に使用するモデルを選択します。

生成された応答をテストおよび検証して、正確性と有効性を確認します。

オプション B は、プロンプト ビルダーを使用するための適切な手順に従っているため正解です。

オプション A とオプション C では、プロセス全体が正しくキャプチャされません。

参照：

Salesforce プロンプトビルダーのドキュメント: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_builder_overview.htm

質問: 79

Salesforce Einstein Copilot の機能によって最もよくサポートされるユースケースはどれですか？

A. Salesforce 管理者ユーザーが CRM データを使用してカスタム大規模言語モデル (LLM) を作成およびトレーニングできるようにします。

B. データ サイエンティストが組み込みの機械学習機能を使用して、過去の CRM データで予測 AI モデルをトレーニングできるようにします。

C. 開発者や e コマース小売業者など、すべての Salesforce ユーザーが AI と対話するための会話型インターフェースを統合します。

正解: ([正解を表示します](#))

Salesforce Einstein Copilotは、開発者、営業担当者、小売業者など、さまざまなSalesforce ユーザーが利用できる会話型AIインターフェースを提供するように設計されています。AI 搭載のアシスタントとしてシステムとの自然なやり取りを促進し、ユーザーがタスクを実行したりデータにアクセスしたりできるようにします。これには、レポートの取得、レコードの更新、パーソナライズされたレスポンスのリアルタイム生成などのタスクが含まれます。

* オプション A は正解です。Einstein Copilot は幅広いユーザーに対応する会話型インターフェースを提供します。

* オプションバンドオプションケアは、Einstein Copilot の主な機能ではない AI モデルの開発とトレーニングに重点を置いています。

参考文献:

* Salesforce Einstein Copilot の概要:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=アインシュタイン副操縦士の概要.htm>

質問: 80

サポート チームは大量のチャット インタラクションを処理しており、顧客からの問い合わせに対して迅速かつ適切な回答を提供するソリューションを必要としています。

一貫性と正確性を維持するために、応答は組織の知識ベースに基づいている必要があります。

サポートチームは Einstein for Service のどの機能を使用する必要がありますか?

- A. アインシュタインサービス応答
- B. アインシュタインの返信の推奨事項
- C. アインシュタインのナレッジレコメンデーション

正解: ([正解を表示します](#))

サポートチームは、Einstein ReplyRecommendationsを活用し、組織のナレッジベースに基づいた、顧客からの問い合わせに迅速かつ的確な回答を提供する必要があります。この機能はAIを活用し、過去のやり取りとシステムに保存されたナレッジに基づいて、正確で一貫性のある返信を推奨します。これにより、組織の標準に沿った回答が確実に提供されます。

* Einstein Service Replies (オプション A) は、返信の生成に重点を置いていますが、ナレッジベースでの応答の根拠付けにはそれほど重点を置いていません。

* Einstein KnowledgeRecommendations(オプションC)は、エージェントにナレッジ記事を提案します。これは、顧客に自動またはAI生成の応答を提供するよりも、エージェントが関連する記事を見つけるのを支援することに重点が置かれています。

Salesforce AI スペシャリスト リファレンス:Einstein Reply の推奨事項の詳細については、<https://help> を参照してください。

[salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_reply_recommendations_overview.htm](https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_reply_recommendations_overview.htm)

質問: 81

管理者は、Universal Containers (UC)のCRMデータのセキュリティと信頼性を確保する責任を負っています。UCには、強化されたデータ保護と最新のAI機能が必要です。また、UCでは、プロンプトにマージするSalesforceレコードの関連情報も含める必要があります。

Einstein Trust Layer のどの機能が UC のニーズを最もよくサポートしますか?

- A. データマスキング
- B. 安全なデータ取得を備えた動的グラウンディング
- C. ゼロデータ保持ポリシー

正解: ([正解を表示します](#))

SalesforceのEinstein Trust Layerの主要機能であるダイナミックグラウンディングとセキュアなデータ取得は、データ保護を強化し、AIが生成する出力の正確性と安全性を確保し

ます。この機能により、関連するSalesforceデータをAIが生成するレスポンスに統合できるため、AIの出力はコンテキストを認識し、リアルタイムのCRMデータと整合性を保つことができます。

ダイナミックグラウンディングとは、AIモデルがSalesforceレコード（顧客レコード、ケースデータ、カスタムオブジェクトデータなど）から関連情報を安全に動的に取得することを意味します。これにより、AI処理中に機密データが保護され、AIモデルの出力がビジネス用途において信頼性と信頼性を確保します。

その他のオプションは要件とあまり一致していません。

- * データ マスキングは、プライバシー保護のために機密データを隠すことを指し、Salesforce レコードをプロンプトにマージすることとは関係ありません。
- * ゼロデータ保持ポリシーにより、AI プロセスは処理後にユーザーデータを保存しないことが保証されますが、Salesforce レコード情報をプロンプトにマージする必要性には対応していません。

参考文献:

- * Einstein Trust Layer に関する Salesforce 開発者ドキュメント
- * AIとデータプライバシーに関するSalesforceのセキュリティドキュメント

質問: 82

Salesforce 組織で Prompt Builder を活用するための正しいプロセスは何ですか？

- A.** 使用する適切なプロンプトテンプレートタイプを選択し、Salesforce の標準プロンプトの1つを選択し、プロンプトを関連付けるオブジェクトを決定し、検証するレコードを選択し、プロンプトをアクションに関連付けます。
- B.** 使用する適切なプロンプト テンプレート タイプを選択し、プロンプト ワークスペース内でプロンプトを開発し、CRM から派生したグラウンディング データを動的に挿入するためのリソースを選択し、使用するモデルを選択して、生成された応答をテストおよび検証します。
- C.** 生成プロンプトのターゲット オブジェクトを有効にし、プロンプト ワークスペース内でプロンプトを開発し、レコードを選択して応答を微調整および確立し、信頼レイヤーを有効にして、プロンプトをアクションに関連付けます。

正解: ([正解を表示します](#))

Salesforce 組織で Prompt Builder を使用する場合、正しいプロセスにはいくつかの重要な手順が含まれます。

- * ユースケースに基づいて適切なプロンプト テンプレート タイプを選択します。
- * テンプレートが作成およびカスタマイズされるプロンプト ワークスペース内でプロンプトを開発します。
- * CRM から得られたグラウンディング データを選択してプロンプトに動的に挿入し、AIによって生成された応答が正確で関連性のあるデータに基づいていることを保証します。
- * Salesforce の組み込みモデルまたはカスタムモデルのいずれかを使用して、応答を生成するために使用するモデルを選択します。

- * 生成された応答をテストおよび検証して、正確性と有効性を確認します。
- * オプション B は、Prompt Builder を使用するための適切な手順に従っているため、正しいです。
- * オプション A とオプション C では、プロセス全体が正しくキャプチャされません。

参考文献:

- * Salesforce プロンプト ビルダーのドキュメント:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.プロンプトビルダーの概要.htm>

質問: 83

AI スペシャリストは、カスタム副操縦士アクションをアクティブ化する前に、実際のユーザーの複数の発話を理解して、アクションが適切に選択されていることを確認したいと考えています。

AI スペシャリストはどのツールを推奨すべきでしょうか？

- A. モデルプレイグラウンド
- B. アインシュタイン副操縦士
- C. コパイロットビルダー

正解: ([正解を表示します](#))

実際のユーザー発話を複数理解し、カスタムコパイロットアクションを実行する前に正しいアクションが選択されていることを確認するには、Copilot Builder というツールの使用をお勧めします。このツールを使用することで、AI スペシャリストはユーザー入力に応じた会話アクションを設計・テストすることができ、コパイロットがさまざまなユーザークエリやフレーズを正確に処理できることを確認できます。Copilot Builder は、実際の発話に基づいてアクションをテスト、改良、改善する機能を提供します。

* オプション C は正解です。Copilot Builder は会話アクションの構成とテスト用に設計されています。

* オプション A (モデル プレイグラウンド) は、ユーザーの発話ではなく、モデルのテストに使用されます。

* オプション B (Einstein Copilot) は会話型インターフェースを指しますが、アクションの設計とテストには適したツールではありません。

参考文献:

- * Salesforce Copilot Builder の概要:<https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.アインシュタイン副操縦士ビルダー.htm>

質問: 84

AI スペシャリストが設定でEinstein Generative AIを有効にしました。AI スペシャリストはプロンプトビルダーでカスタムプロンプトテンプレートを作成したいと考えていますが、設定メニューからプロンプトビルダーにアクセスできません。

問題の原因は何ですか？

- A. プロンプト テンプレート ユーザー権限セットが正しく割り当てられませんでした。

B. プロンプト テンプレート マネージャーの権限セットが正しく割り当てられませんでした。

C. Data Cloud で大規模言語モデル (LLM) が正しく構成されていません。

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

プロンプトビルダーでカスタムプロンプトテンプレートにアクセスして作成するには、AI スペシャリストに「プロンプトテンプレートマネージャ」権限セットが割り当てられている必要があります。この権限がない場合、Einstein Generative AI が有効になっている場合でも、設定メニューでプロンプトビルダーにアクセスできません。

プロンプト ビルダーを使用するにはプロンプト テンプレート マネージャー権限セットが必要なので、オプション B が正解です。

オプション A (プロンプト テンプレート ユーザー権限セット) は正しくありません。この権限では、ユーザーはプロンプトを使用できますが、作成または管理することはできません。

オプション C (データ クラウドでの LLM 構成) は、プロンプト ビルダーにアクセスする機能とは無関係です。

参照 :

Salesforce プロンプトビルダーの権限: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.prompt_builder_permissions.htm

質問: **85**

あるホテルリゾートの営業チームは、ゲストの興味に関するゲストサマリーを作成し、各ゲストプロフィールに記録されたアクティビティの好みに基づいておすす​​めを提供したいと考えています。サマリーは連絡先レコードページでのみ閲覧できるようにしたいと考えています。

チームはどの AI 機能を使用すべきでしょうか？

A. アインシュタインの副操縦士

B. プロンプトビルダー

C. モデルビルダー

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

あるホテルリゾートの営業チームは、ゲストの興味に関する概要を作成し、各ゲストプロフィールに記録されたアクティビティの好みに基づいておすす​​めを提供したいと考えています。概要は連絡先レコードページでのみ利用できるようにする必要があります。

解決 :

プロンプト ビルダーを使用して、必要な概要を生成し、それを連絡先レコード ページに表示するプロンプト テンプレートを作成します。

プロンプトビルダー:

目的: AI を活用して Salesforce データに基づいてコンテンツを生成するカスタム プロンプト テンプレートを作成できるようにします。

機能性:

フィールド生成テンプレート: AI によって生成されたサマリーをレコードのフィールドに入力するために使用できます。

カスタマイズ: AI スペシャリストがゲスト プロファイルのデータを活用してパーソナライズされた概要と推奨事項を作成するプロンプトを設計できるようにします。

ユースケースとの関連性:

営業チームは、特定のレコード ページでコンテンツを生成して表示する Prompt Builder の機能に合わせて、概要を連絡先レコード ページで利用できるようにしたいと考えています。

実装手順:

フィールド生成プロンプトテンプレートを作成します。

プロンプト ビルダーを使用して、フィールド生成タイプの新しいプロンプト テンプレートを作成します。

ゲストの興味やアクティビティの好みに基づいて概要を生成するように AI に指示するプロンプトを設計します。

関連データを含める:

マージ フィールドを使用して、ゲスト プロファイルのデータをプロンプトに含めます。正確な推奨事項を生成するために、プロンプトが必要なフィールドにアクセスできることを確認します。

連絡先ページのレイアウトを設定します。

AI によって生成された概要を表示するフィールドを連絡先レコード ページ レイアウトに追加します。

フィールドが適切な場所にのみ表示されるようにし、連絡先レコード ページでのみ利用可能という要件を遵守します。

Einstein Copilot や Model Builder を使わない理由:

オプションA (アインシュタイン副操縦士):

目的: Einstein Copilot は、自然言語を通じてユーザーと対話するように設計された会話型 AI アシスタントです。

要件との不一致:

チームは、対話型の会話エクスペリエンスではなく、連絡先レコード ページに静的な概要が表示されることを望んでいます。

オプション C (モデルビルダー):

目的: モデル ビルダーは、予測と分類のためのカスタム AI モデルを作成するために使用されます。

適用不可:

既存のデータに基づいてテキスト要約を生成するには、カスタム モデルを構築する必要はありません。

モデル ビルダーは、レコード ページで概要を生成して表示する機能を直接提供しません。

参照:

Salesforce AI スペシャリストドキュメント - プロンプトビルダーの概要:

Prompt Builder とその機能について紹介します。

Salesforce ヘルプ - フィールド生成プロンプトテンプレートの作成:

レコードのフィールドのコンテンツを生成するプロンプト テンプレートを作成するためのガイド。

Salesforce Trailhead - プロンプトビルダーを使用して AI コンテンツをカスタマイズする: プロンプト テンプレートの構築とカスタマイズに関する実践的な経験を提供します。

結論:

Prompt Builderを活用することで、営業チームはカスタマイズされたプロンプトテンプレートを作成し、ゲストのアクティビティの好みに基づいてパーソナライズされた概要と推奨事項を作成できます。このソリューションは、概要を連絡先レコードページにのみ表示するという要件を満たし、チームがゲストと効果的に交流する能力を高めます。

質問: 86

Universal Containers の現在の AI データ マスキング ルールは、組織のプライバシーとセキュリティのポリシーおよび要件に準拠していません。

問題を解決するために AI スペシャリストは何を推奨すべきでしょうか?

- A. サンドボックスの更新のデータ マスキングを有効にします。
- B. Einstein Trust Layer セットアップでデータ マスキングを構成します。
- C. LLM セットアップに新しいデータ マスキング ルールを追加します。

正解: B ([コメントを发表する](#))

Universal ContainersのAIデータマスキングルールが組織のプライバシーおよびセキュリティ基準を満たしていない場合、AIスペシャリストはEinstein Trust Layer内でデータマスキングルールを設定する必要があります。Einstein Trust Layerは、プライバシーポリシーと規制を遵守するために機密データをマスキングまたは匿名化できる、安全でコンプライアンスに準拠した環境を提供します。

サンドボックスの更新時にデータ マスキングを有効にするオプション A は、AI が本番環境データと対話する方法とは別のサンドボックス環境に関連しています。

オプション C (LLM セットアップでマスキング ルールを追加する) は、データ マスキングが LLM 構成ではなく Einstein Trust Layer を通じて管理されるため、適切ではありません。Einstein Trust Layer を使用すると、AI モデルに公開されるデータをより詳細に制御し、プライバシー規制への準拠を確保できます。

Salesforce AI スペシャリストリファレンス:

詳細については、https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_trust_layer_data_masking.htm を参照してください。

質問: 87

Universal Containers はユーザー向けに Einstein Copilot を実装しました。

あるユーザーは、Einstein Copilot が過去 7 日間のアクティビティを削除していないと不満を述べています。

この問題の原因は何ですか?

- A. Einstein Copilot レコード削除アクション権限がユーザーに関連付けられていません。

B. Einstein Copilot には、ユーザーのレコードを削除する権限がありません。

C. Einstein Copilot はレコードの削除アクションをサポートしていません。

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

Einstein Copilotは現在、レコードの作成や更新といった様々なアクションをサポートしていますが、「レコードの削除」アクションはサポートしていません。そのため、過去7日間のアクティビティを削除するというユーザーのリクエストは、Einstein Copilotでは対応できません。

サポートされていないアクション :レコードを削除できないのは、Einstein Copilot でサポートされているアクションの現在の制限によるものです。Einstein Copilot はデータの取得、作成、更新などのタスクを支援するように設計されていますが、セキュリティとデータの整合性上の理由から、レコードの削除はサポートされていません。

ユーザー権限: ユーザーが Salesforce 内でレコードを削除するために必要な権限を持っている場合でも、Einstein Copilot 自体には削除操作を実行する機能がありません。

参照 :

Salesforce AI スペシャリストドキュメント - Einstein Copilot でサポートされているアクション:

削除操作がない点に注意しながら、Einstein Copilot が実行できるアクションを一覧表示します。

Salesforce ヘルプ - Einstein Copilot の制限:

レコードの削除などのサポートされていないアクションを含む、現在の制限事項を強調表示します。

質問: **88**

Salesforce Einstein Copilot の機能によって最もよくサポートされるユースケースはどれですか?

A. 開発者や e コマース小売業者など、すべての Salesforce ユーザー向けに AI と対話するための会話型インターフェースを統合します。

B. Salesforce 管理者ユーザーが CRM データを使用してカスタム大規模言語モデル (LLM) を作成およびトレーニングできるようにします。

C. データサイエンティストが、組み込みの機械学習機能を使用して、過去の CRM データから予測 AI モデルをトレーニングできるようにします。

正解: **A** ([コメントを发表する](#))

Salesforce Einstein Copilotは、開発者、営業担当者、小売業者など、さまざまなSalesforce ユーザーが利用できる会話型AIインターフェースを提供するように設計されています。AI搭載のアシスタントとしてシステムとの自然なやり取りを促進し、ユーザーがタスクを実行したりデータにアクセスしたりできるようにします。これには、レポートの取得、レコードの更新、パーソナライズされたレスポンスのリアルタイム生成などのタスクが含まれます。

オプション A が正解です。Einstein Copilot は幅広いユーザーに対応する会話型インターフェースを提供します。

オプション B とオプション C は、Einstein Copilot の主な機能ではない AI モデルの開発とトレーニングに重点を置いています。

参照：

Salesforce Einstein Copilot の概要: https://help.salesforce.com/s/articleView?id=einstein_copilot_overview.htm

質問: 89

Universal Containers (UC) は、顧客インサイトとインタラクションの向上を目指し、Einstein Generative AI を導入しています。UC は、レポート作成のために監査データとフィードバックデータにアクセスできるようにする必要があります。

この要件に関する考慮事項は何ですか？

- A. このデータを保存するには、Data Cloud をプロビジョニングする必要があります。
- B. このデータを保存するには、データを構成するカスタム オブジェクトが必要です。
- C. このデータを保存するには、Salesforce ビッグオブジェクトが必要です。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Generative AI を導入して顧客インサイトとインタラクションを向上させる場合、大規模な監査データやフィードバックデータを保存・管理するための Data Cloud は重要な検討事項です。Salesforce Data Cloud (旧称 Customer 360 Audiences) は、様々なソースからの膨大なデータセットを処理・統合するように設計されており、AI を活用したインサイトやレポート作成に必要なデータの保存に最適です。Universal Containers (UC) のような組織は、Data Cloud を導入することで顧客データへのリアルタイムアクセスを実現し、様々なシステムにわたる統合レポート作成のための中央リポジトリとして活用できます。Einstein Generative AI によって生成された監査データとフィードバック データは、スケーラブルでアクセス可能な環境に保存する必要があります。Data Cloud はこの機能を提供し、レポート、分析、およびさらなるモデルの改善のためにデータに簡単にアクセスできるようにします。

カスタムオブジェクトや Salesforce Big Object は、AI を活用したインタラクションに必要な規模や特定の種類のリアルタイム統合データ処理向けには設計されていません。Big Object はアーカイブデータに適していますが、Data Cloud はより堅牢な処理、セグメンテーション、分析機能を提供します。

参照：

Salesforce Data Cloud ドキュメント: <https://www.salesforce.com/products/data-cloud/overview/> Salesforce Einstein AI の概要: <https://www.salesforce.com/products/einstein/overview/>

質問: 90

AI スペシャリストが Einstein Trust Layer 内でデータ マスキングを構成しました。

AI スペシャリストは、正しいフィールドがマスクされていることをどのように検証する必要がありますか？

A. プロンプト ビルダーのフローベースのリソースを使用して、フロー デバッガーでフィールドのマージ値をデバッグします。

B. 設定メニューのセキュリティセクションから Einstein Generative AI 監査データを要求します。

C. Einstein フィードバック設定ページで、Einstein Generative AI 監査データの収集と保存を有効にします。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Trust Layer で正しいフィールドがマスクされていることの検証を開始するには、AI スペシャリストが Salesforce セットアップ メニューのセキュリティ セクションから Einstein Generative AI 監査データを要求する必要があります。

この監査データにより、AI スペシャリストは、どのフィールドがマスクされているかなど、データがどのように処理されているかを確認できるため、構成が期待どおりに機能していることの透明性と検証が可能になります。

* オプション B は、データ マスキングの検証に使用できる監査データの取得を可能にするため、正解です。

* オプション A (フロー デバッガー) とオプション C (Einstein フィードバック)

は、Einstein Trust Layer のコンテキストでのフィールド マスキングの検証には関係しません。

参考文献:

* Salesforce Einstein Trust Layer ドキュメント: <https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf>.

アインシュタイン信頼レイヤー監査.htm

質問: 91

Einstein Copilot の 会話データを使用してイベント ログを強化する」設定が有効になっている場合、AI スペシャリストは何ができますか？

A. 各副操縦士アクションにつながったユーザー クリック パスを表示します。

B. 過去 7 日間のセッションのユーザー入力や副操縦士の応答などのセッション データを表示します。

C. 任意の期間にわたるすべての Copilot 会話の詳細レポートを生成します。

正解: ([正解を表示します](#))

Einstein Copilot で 会話データでイベントログを拡充する」設定を有効にすると、AI スペシャリストまたは管理者は、過去 7 日間のインタラクションにおけるユーザー入力と Copilot の応答の両方を含むセッションデータを表示できます。このデータは、Copilot の使用状況のモニタリング、パフォーマンスの分析、過去の入力に基づいた将来のインタラクションの改善に不可欠です。

この設定により、イベント ログに詳細な会話データが加えられ、インタラクション履歴に関する分析情報が向上し、AI スペシャリストが AI の動作とユーザー エンゲージメントを追跡できるようになります。

オプション A は、ユーザーのクリック パスを表示し、ナビゲーションに重点を置いていますが、会話データの拡充機能の一部ではありません。

オプション C (任意の期間にわたる詳細なレポートを生成する) は、この特定の機能が過去 7 日間のデータに制限されているため、正しくありません。

Salesforce AI スペシャリストリファレンス:

さらに詳しい情報については、次のドキュメントを参照してください:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.einstein_copilot_event_logging.htm

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード:

JPNshiken」

有効的な**Salesforce-AI-Specialist**問題集はJPNTest.com提供され、**Salesforce-AI-Specialist**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**Salesforce-AI-Specialist**試験問題集を提供します。JPNTest.com Salesforce-AI-Specialist試験問題集はもう更新されました。ここで**Salesforce-AI-Specialist**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/Salesforce-AI-Specialist-mondaishu> **157問、30%ディスカウント**、特別な割引コード:

JPNshiken」